公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成28年12月1日発行（毎月1回1日発行） 通巻564号

ハンドボール

12
Dec. 2016 No.564

特集
第71回 国民体育大会
第5回アジアビーチゲームズ



［表紙写真］ 第71回国民体育大会、少年男子優勝・山口県の栗栖昇己選手（左）、少年女子優勝・茨城県の小林可奈選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

今一度、普及活動を見直そう！

―充実した活動・楽しいハンドボールが、日本のハンドボールを創る―



公益財団法人 日本ハンドボール協会参事・普及委員長　**山本　繁**

1　ハンドボールの普及とは

「ハンドボールは 24 位！ 0.2%」この数値は、なんでしょう？　これは、スポーツ少年団登録人数の全国順位と比率です。これ自体が人気や普及の評価ではありませんが、現実であり、ある程度目安になるでしょう。ハンドボールの小学生チームは実質男女で 600 近くありますから、野球やサッカーの約 1/13 になります。

そう！　まだまだ裾野は広がってはいないのです。良さを知らない人々が多いのです。だから広げたいのです！　こんなすばらしい、子供達、小中学生に適した楽しいスポーツ、成長に役立つスポーツはないのですから !!

「ハンドボールの普及」といってもたくさんやることがあります。そこをまず整理して、どのように育成や強化につなげたり、人気につなげたりするのか、考えてみましょう。

基本的な考え	○　普及の種類	○　めざすもの
	1　ハンドボールを始める人を増やすこと	1　競技人口の増加　（特に小中学生）
	2　ハンドボールを続ける人を増やすこと	2　指導者育成　（特に若手、女性指導者）
	3　ハンドボールを指導する人を増やすこと	3　より健全なチーム・プレーヤーへの変革
	4　ハンドボールを応援する人を増やすこと	4　人気スポーツとしての躍進・定着
	＊そして、これらは密接に関連しています。	＊細かくは、まだまだたくさんありますが…

2　具体策は

（1）ハンドボールを始める人を増やす⇒そのためにも、指導者育成を

普及の第一は、なんといっても小中学生のハンドボーラーやハンドボールチームを増やすことでしょう。まずは、今ハンドボールが盛んな地域で、より競技人口を増やすこと。続ける環境をつくること。そして、未だハンドボールがあまり根付いていない都道府県や市町村にも、ハンドボールチームができるように支援をすることです。そのためには、指導者育成が急務です。その支援策を都道府県協会と連携して考えていきます。

（2）ハンドボールを楽しみ続ける人を増やす⇒その中から指導者を目指す者が

次に、今ハンドボールをしている人が、競技を続けたり指導者や応援者で関わり続ける体制・環境を整えていくことです。ハンドボールにも多様な楽しみ方があります。マスターズ大会は、全国大会が 20 回を越え盛り上がりが衰えません。今後「順位決定型」大会の単独開催、「オーバー 60（女子は 50）」大会の開催、ブロック大会の充実など、より多様な楽しみ方を工夫していきます。ビーチハンドボールは、ユースオリンピックの種目がビーチハンドボールとなり、今後競技人口を増やしていかなくてはなりません。地域によってはビーチハンドボールのプライベート大会が開催され、盛り上がりをみせています。一般成人のチームにおいては、都道府県協会や市町村協会と協力し、リーグ戦等の「ゲームを楽しむ機会」の増加について工夫したいと思います。

そして、これらの中から小中学生の指導に興味をもつ若手やシニアが現れてくることも期待しています。その手助けとして、研修会等の充実を指導委員会やキャリアサポート委員会と連携していきます。特に、女性指導者や若手指導者の育成に力を入れていきたいと考えています。

3　人気スポーツとして、躍進・定着するために

○強化と普及は、スポーツ競技団体の両輪です。オリンピックの出場、各世代世界選手権での活躍は、普及としても必須です。2019 熊本女子世界選手権、2020 東京五輪に向けた強化に期待します。そして、その後の強化には、今現在の普及が大きく影響します。10 年後を見据えて「今の普及」に全力を傾けます。

○健全で信頼あるチーム、尊敬されるプレーヤー、指導技術も人間性もすばらしい指導者、これらも必須です。
指導委員会、小学生・中学生委員会、中体連・高体連、学連等との共通認識も、とても重要です。

◎なによりも日本ハンドボール協会が、「子供達、青少年にとって、何が一番大切で良い事なのか！」という想いをもって、普及活動を推進してまいります。ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。





第71回国民体育大会 ハンドボール競技




4点共　写真提供：スポーツイベント社

開催期日：平成 28 年 10 月 6 日(木)～ 10 月 10 日(月)
会　　場：花巻市総合体育館・花巻市民体育館・富士大学スポーツセンター

最終順位

種別	優勝	第２位	第３位	第４位	第５位
成年男子	愛知県	埼玉県	宮城県	千葉県	福島県、福井県、佐賀県、岩手県
成年女子	石川県	熊本県	広島県	鹿児島県	東京都、茨城県、千葉県、福島県
少年男子	山口県	沖縄県	茨城県	長崎県	岩手県、岐阜県、京都府、神奈川県
少年女子	茨城県	大阪府	香川県	福岡県	京都府、東京都、福井県、山口県

種別	1位	2位	3位	5位	6位
男女総合成績	茨城県	山口県	石川県、愛知県	千葉県	埼玉県、大阪府、熊本県、沖縄県
種別	1位	2位	3位	5位	7位
女子総合成績	茨城県	石川県	大阪府、熊本県	広島県、香川県	東京都、福岡県、鹿児島県

大会を振り返って

岩手県ハンドボール協会理事長
岡市　武

希望郷いわて国体は、2011 年 3 月の東日本大震災で甚大な被害を受けたことで、返上の声が上りましたが、県民の総意ということで開催した経緯がありました。

東日本大震災から 5 年半が経ち、世界、全国から多大なご支援をいただき、「復興の歩み」を進めている本県で、国体開催は大変意義深く特別な想いが交錯する大会となりました。岩手県では昭和 45 年に盛岡市で開催されて以来 46 年ぶりの開催となり、「広げよう感動。伝えよう感謝。」の大会スローガンのもと、第 71 回希望郷いわて国体ハンドボール競技会が 10 月 5 日の諸会議・オープニングセレモニーを皮切りに、競技は 10 月 6 日から 10 日までの 5 日間、花巻市の花巻市総合体育館、花巻市民体育館、富士大学スポーツセンターの 3 会場 6 コートで開催され、無事大会を終了いたしましたことをご報告いたします。

花巻市では 7 競技が開催され、花巻市総合体育館では 5 日までバレーボール競技会場となっており、バレーボール競技終了直後にハンドボール競技への転換を行い、翌日 6 日からの競技開始に備えました。転換に係わっていただきました多くの競技役員、係員、補助員の皆様に深く感謝いたします。

また、台風 18 号の接近により風雨が強まり、選手控室、売店、おもてなし等のテントを畳まざるを得ない状況になりました。そこで、急遽、選手控室を多目的ルームに、審判・TD 控室をプレハブに変更し対応しました。変更に伴い選手はもちろん審判、TD、受付係等にもご迷惑をおかけしましたが、スムーズに対応をしていただき感謝いたします。

大会で特筆されるのは、少年男子では選抜、インターハイの覇者岩国工業高等学校を中心とした山口県が、少年女子でも選抜、インターハイの覇者水海道第二高等学校の茨城県が各県に研究され接戦が多いなか優勝し、共に全国大会 3 冠の偉業を成し遂げました。成年男子ではクラブチームの FOG に学生を加えた千葉県が、実業団チームのトヨタ紡織九州の佐賀県を破り堂々のベスト 4 入りを果たしました。3 位決定戦ではトヨタ東日本の宮城県と大熱戦を繰り広げましたが、惜しくも破れ第 4 位という結果でした。優勝は、大崎電気の埼玉県の 5 連覇を阻止したトヨタ車体の愛知県でした。成年女子は北國銀行で固めた石川県が大会 4 連覇を遂げました。

大会期間中、多くの観客に足を運んでいただき大会を盛り上げていただきました。そのなか、岩手県勢は多くの県民、観客の応援を背に戦い、成年女子と少年女子は惜しくも初戦突破は成りませんでしたが、成年男子と少年男子が 5 位入賞を果たしてくれました。少年男子は準々決勝で山口県と対戦し、前半をリードし後半に逆転はされましたが、追い上げを見せ大応援団を熱狂させました。試合には敗れましたが、最高の試合内容でした。

運営面で参加各県のチーム選手、関係者にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げるとともに、本大会の開催にご尽力を賜りました公益財団法人日本ハンドボール協会、東北ハンドボール協会、競技役員、花巻市実行委員会、花巻市職員、ボランティア、大学生・高校生補助員の皆様に心から感謝申し上げます。最後に、来年開催されます第 72 回国民体育大会「笑顔つなぐえひめ国体」の成功をご祈念申し上げます。

成年男子　優勝　愛知県



愛知県成年男子監督　酒巻 清治（トヨタ車体）

愛知県代表として6年ぶり、またトヨタ車体単独チームとしては初となる優勝を収めることができました。激戦区（大同特殊鋼、豊田合成と対戦する県予選）の代表として参加させて頂き、対戦チームに顔向けできる結果を得たことに安堵し、近年準優勝が続いており今優勝を愛知県並びに刈谷市の皆さんにお届けできたことを大変嬉しく思っております。

我々愛知県は、決勝戦こそ昨年同様埼玉県（大崎電気）との対戦になったものの、準決勝までは2020東京を見据えたターゲットエイジを有するチームとの対戦となり、若く勢いのあるチームをいかに理論＆基本スキルを持って封じ込めることができるかが大きなポイントでありました。1回戦の東京都は、選手個々の能力は高いものの、要所でのDFコミュニケーションには我々に多少のアドバンテージがあり、結果的には好スタートを切ることができました。2回戦は地元岩手県チーム、最も対戦したくないチームでありましたが、愛知県のDF力が相手の攻撃陣を封じ込め、終始我々のペースで試合を進めることができました。準決勝は、前日に佐賀県（トヨタ紡織九州）を破った千葉県との対戦、この試合もスタートから相手エース・吉野、ゲームメイカー・佐藤に厳しいマークを集め、スタートからのリードを保ち決勝戦へと駒を進めました。ここ数年、決勝戦では圧倒的に分が悪い埼玉県との対戦は、「テクニカルミス」をいかに抑え、効果的に得点を重ねることができるかがポイントでしたが、ベテラン・門山のリーダーシップが功を奏し、各ポジションで選手個々がしっかりと役割を果たした結果、念願の優勝を勝ち取ることができました。

最後に、大会期間中にサポート頂いた花巻市の温かいホスピタリティーにはこの場をお借りして感謝申し上げます。しかし、流石は花巻です。震災後東北地方初の国体開催でしたが、それを微塵も感じさせない笑顔と心配りを頂き、思い切り「国体」を楽しむことができました。大変お世話になりました。有難うございました。



2点共　写真提供：スポーツイベント社

成年女子 優勝 石川県

石川県成年女子主将　寺田 三友紀（北國銀行）

はじめに第71回国民体育大会の開催にあたり、日本ハンドボール協会および岩手県国民体育大会実行委員会、岩手県ハンドボール協会をはじめとします、関係者各位に心より感謝申し上げます。

この度の第71回国民体育大会において4年連続9回目の優勝を達成することができました。これもひとえに日頃よりご支援・ご声援をいただいております石川県ハンドボール協会ならびにサポーターの皆様方、家族の皆様方、そしてチーム強化に強力なバックアップをしていただいております、深山相談役、安宅頭取をはじめとします、役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

初戦、2戦目は、試合の出だしから自分たちのDFが機能せず、相手に勢いをつけさせてしまう展開となりましたが、要所でしっかり点数を取り準決勝に進むことができました。準決勝では、石川県らしく守って速攻のゲーム展開をスタートからすることができ、12名全員がコートに立ちコンスタントに得点を重ねて決勝に進むことができました。

決勝では、一進一退の攻防が続き、前半を9対5で終えました。終始安定したDFで粘り合いながらもなんとか逃げ切り、18対13で優勝することができました。

全日本社会人選手権大会、国民体育大会と2冠を獲ることができ嬉しく思いますが、まだまだ波のある試合展開であったり、課題もたくさんあります。この後続く、日本選手権、日本リーグに向けて気を引き締めて戦っていきたいと思います。そして、応援して下さる皆様に恩返しができるように頑張りたいと思います。北國銀行をはじめ、協会、サポーターの皆様にはこれまでと変わらぬご支援・ご声援を宜しくお願い致します。



写真提供：スポーツイベント社



少年男子 優勝 山口県



山口県少年男子コーチ　岡田 雅央（県立下関中央工業高校）

このたび、岩手県花巻市で開催されました東日本大震災復興の架け橋第 71 回国民体育大会希望郷いわて国体において、6 年ぶり 8 度目の優勝を果たすことができ、この優勝で岩国工業高校の倉谷監督や選手にとっては、悲願の「3 冠」達成となりました。

今年の少年男子選抜チームは岩国工業 9 名、下松工業 2 名、岩国 2 名、下関中央工業 1 名で構成され、歓喜に沸いた岩国工業高校の地元インターハイ優勝の 3 日後、8 月 10 日からの京都遠征でチームが始動しました。2 冠を達成し実力十分の岩国工業のメンバーに、個々の能力の高い選手が加われば、更に強力なチームになるとの周囲の評価でしたが、当初は混成チームゆえの難しさと、2 冠達成の自信からくる甘さもあり、遠征のたびに負け越して帰る日々が続きました。チームとしてのまとまりを欠いたままブロック大会に臨み、岡山県に敗退し 2 位での国体出場という予想外の結果に、周囲の期待や 3 冠へのプレッシャー、未完成なチームワークなど、解決すべき課題の多さを痛感させられました。



2点共　写真提供：スポーツイベント社

9 月からの遠征や練習は、就職試験などでメンバー全員が揃わないこともありましたが、1 つのミスに厳しく、トレーニングやチーム分析でも妥協せず、主将栗栖を中心に課題を一つ一つ解決していき、山口県の代表というプライドを胸に国体へ臨みました。初戦の埼玉県に勝利し、大会前から「優勝するためにはポイントとなる試合だ」と倉谷監督が選手に言い続けてきた開催地岩手県との試合では、地元応援団の大歓声の中で選手が浮足立ち 1 点差まで詰め寄られましたが、エース徳田の活躍で何とか勝利することができました。準決勝の茨城県戦では、前夜の選手ミーティングでケンカになるほど話し合った成果が表れ、後半突き放して勝利し、決勝の舞台へ駒を進めました。決勝の沖縄県戦では、前半最大 4 点のリードを奪われましたが、ハーフタイムで DF の修正点を確認し、後半一気に逆転し優勝することができました。私自身昨年に引き続き少年男子選抜チームのスタッフに入れていただき、昨年は 3 位、今年は優勝という貴重な経験ができ、倉谷監督、選手をはじめ、山口県体育協会・山口県ハンドボール協会の皆様には感謝しております。今後も、数々の実績を残してこられた山口県の指導者に続けるよう努力していきたいと思います。

最後になりましたが、日本ハンドボール協会、岩手県ハンドボール協会、また大会の準備、運営等に携わっていただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

少年女子　優勝　茨城県

茨城県少年女子監督　飯田 健一（県立牛久栄進高校）

この度、2016希望郷いわて国体において55年ぶりの優勝を成し遂げることができました。これも偏に日頃よりご支援ご協力頂いております茨城県体育協会並びに茨城県ハンドボール協会、保護者の皆様、OGの皆様方の賜物と深く感謝申し上げます。

さて今大会は、3月に行われた全国高等学校選抜大会、8月に行われたインターハイに続き、「3冠」という偉業を目指しての大会となりました。春・夏の大会を優勝し相手チームからマークされていることは覚悟の上、インターハイを終えた選手たちには敢えて「3冠を獲りにいく」と公言しトレーニングに励みました。「3冠」を意識させることで選手たちにプレッシャーを与えてしまう懸念もありましたが、明確な目標を言葉にすることで責任が生まれ、「何のためにやっているのか」、「どうしなければならないのか」など選手たちに問い、練習の質を高めていきました。そして迎えた今大会。予想通り初戦から苦戦を強いられましたが、苦しい状況でも選手たちが力を発揮し、延長戦や僅差の試合を勝利して、「3冠」まであと一つというところまで進みました。決勝前夜のミーティングでは選手たちともう一度目標を確認し合い、今大会メンバーに入れず決勝戦にかけつけてくれる水海道二高の部員の前で最高の結果を残そうと話しました。決勝戦では、コート上で選手たちが躍動し、茨城の持ち味である守って速攻で得点を重ね、28対17で大阪府に勝利し優勝を飾ることができました。優勝した瞬間、選手たちに感謝すると同時に、いつも傍で見守って下さり、苦しい時に支えてくれる私の恩師である藤代紫水高校監督の滝川一徳先生と抱き合ったときは、私の高校時代を思い出させてくれるものでもありました。

最後になりましたが、第71回国民体育大会の開催にあたり、ご尽力を賜りました日本ハンドボール協会並びに岩手県ハンドボール協会をはじめとします関係各位の皆様に改めて、厚く御礼申し上げます。





2点共　写真提供：スポーツイベント社

戦　評

成年男子

■３位決定戦

宮城県　26（11－12、15－12）24　千葉県

宮城県のスローオフで試合開始。千葉県はGK田中の好セーブからの速攻で先制点をあげる。その後、千葉県は吉野の連続得点などにより加点するが、宮城県も玉井らの得点により離されず、一進一退の攻防が続いた。前半は12対11で千葉県のリードで折り返した。

後半の立ち上がりは互いに粘り強いディフェンスで、主導権を握らせなかったが、宮城県桑名の連続得点により後半10分に同点に追いつく。その後は互いに点を取り合う展開となった。同点のまま後半25分を迎え、宮城県濱口の連続得点により勝ち越すと、千葉県はタイムアウトを要求。しかし宮城県も厳しいディフェンスにより得点を許さず、26対24で宮城県が勝利を飾り、第３位に輝いた。

■決勝

愛知県　30（12－15、18－10）25　埼玉県

埼玉県が５連覇をかけた決勝戦、愛知県津屋がカットインで先制。続いて、渡部のサイドシュートと愛知県の２連続得点で試合の幕が開いた。その後、埼玉県信太が火を噴き、打てば入る多彩なシュートで、前半10分には７対５とリードする。対する愛知県はサイド藤本からポスト高木に華麗なパスが決まり、見応えのあるプレイで会場が沸く。その後も一進一退の攻防が続き、埼玉県の３点リードで折り返した。

後半開始早々、愛知県は高木のポストシュートが決まり、８分には同点に追いつく。対する埼玉県は、退場者が続き厳しい展開となるが、要所で岩永のミドルシュートや小澤のサイドシュートでなんとか凌ぐ。終盤の勝負どころでは愛知県甲斐の好セーブ、門山の気迫あふれるシュートで埼玉県をたたみかけ、６年ぶりに愛知県が日本一の座を手にした。技・スピードともに成年男子決勝にふさわしい好ゲームとなった。



４点共　写真提供：スポーツイベント社

成年女子

■３位決定戦

広島県　27（11－12、16－7）19　鹿児島県

試合開始早々、広島県が高山のミドルシュートで先制。その後は、両チームともアップテンポの試合展開の中、GKを中心とした素晴らしいディフェンスでロースコアの展開が続く。終盤に差しかかり試合が動き出す。広島県眞継の連続得点で鹿児島県を突き放しにかかった。それに対して鹿児島県も鈴木、山野のロングシュートで食い下がる。そして、鹿児島県矢崎、錦織のパスカットからの連続得点で逆転し、12対11で鹿児島県のリードで前半を終える。

後半開始から一進一退の攻防が続く中、均衡を破るため鹿児島県はディフェンスを３－３ディフェンスに変え、フローターにプレスをかける。しかし、広島県はディフェンスの隙を突き門谷のサイドシュートなどで点差を広げていった。鹿児島県も山野のシュートで奮闘するも勢いづいた広島県は攻撃の手を緩めず、笠木の連続得点などで鹿児島県を打ち砕き、広島県が３位になった。

■決勝

石川県　18（9－5、9－8）13　熊本県

４連覇を狙う石川県と第67回大会以来の王者返り咲きを狙う熊本県との成年女子決勝戦は、ポストのトランジションをきっかけにコートを広く使ったセットオフェンスを組み立てる石川県が前半15分を終えて７対３とリードする展開に。熊本県は徐々にディフェンスが対応し始めるが、要所で石川県GK寺田の好セーブにあい、なかなか点差を縮めることができず、前半を４点差のまま折り返す。

後半、ディフェンスを修正し、サイドやポストのトランジションからカットインで反撃する熊本県だが、石川県は河田の連続得点、横嶋のミドルシュート、速攻で得点を積み重ねる。後半25分、GK山中が7mTをセーブするなど、流れをつかみたい熊本県だったが、退場者を出すなどして苦しい試合展開を強いられる。試合終了まで運動量を落とさず、ワイドな攻撃を繰り広げ、要所でシュートを決め続けた石川県が見事に４連覇を成し遂げた。



戦　評

少年男子

■３位決定戦

茨城県　32（15 − 6、17 − 8）14　長崎県

茨城県のスローオフで試合開始。両チームGKの好セーブもあったが、互いにミスもあり前半10分までは両チーム共に主導権を握ることができなかった。その後、茨城県は激しいディフェンスから河原の得点を皮切りに６連続得点を挙げ、リードを広げた。長崎県も末岡、小武の得点で追いかけるが、茨城県GK中村の好セーブもあり15対６の茨城県リードで前半を折り返した。

後半開始から７分までに茨城県は多彩なパスワークから千葉らの８連続得点で一気に点差を広げる。その後、長崎県もディフェンスを立て直すもなかなか得点できない時間が続いたが、中島の7mTからの５連続得点により追い上げる。後半22分茨城県のタイムアウトからは、互いに得点を取り合う展開となったが、後半開始後の怒涛の攻めで突き放した茨城県が32対14で第３位に輝いた。

■決勝

山口県　32（14 − 16、18 − 9）25　沖縄県

高校三冠を目指す山口県と２年ぶりの優勝を狙う沖縄県による少年男子決勝は、沖縄県のスローオフで開幕した。沖縄県は立ち上がり渡慶次による先制を皮切りに、素早いパスワークと平仲らの鋭いカットインで得点を重ね、島袋も好セーブを連発する。対する山口県も徳田、長弘を軸にディフェンスの壁をこじ開け沖縄県を猛追する。激しいコンタクトとカウンターの応酬の中、一進一退の攻防が続き、沖縄県の２点リードで前半を折り返す。

後半５分、山口県が徳田の７点目となるミドルシュートで逆転に成功する。11分、山口県１点リードの場面で沖縄県がタイムアウトを申請し、巻き返しを図るも栗栖のカットインなどで追加点を許し、攻めては助安らの粘り強いディフェンス、田中の好セーブに阻まれる。逆襲を狙う沖縄県は山城を山口県のエース徳田のマークにつけるも山口県の勢いは止まらない。その後も沖縄県の猛追を振り切り、山口県が高校三冠を手中に収め、いわて国体ハンドボール競技のフィナーレを飾った。



少年女子

■３位決定戦

香川県　22（11 − 8、11 − 13）21　福岡県

福岡県のスローオフで始まった前半、鍋井のサイドシュートで先制した香川県は、福岡県の3-2-1ディフェンスをトランジションやカットインを駆使してうまく崩し、前半10分で７対１と福岡県に差をつける。素早いパス回しから追加点を狙う福岡県は、香川県GK中川の好セーブに幾度となく阻まれるも安田を中心に粘り強く攻め続け、前半を８対11の３点差にして折り返す。

迎えた後半、滝平のサイドシュートを皮切りに、香川県はGK中川を中心とした堅い守備から速攻で得点を積み重ねていく。対する福岡県も香川県の退場をきっかけにマンツーマンディフェンスをしく。パスカットからの速攻や１対１で積極的に仕掛けていき、後半28分で１点差とする。後半残り14秒、福岡県は最後のタイムアウトを申請し、サイドの飛び込みからポストへのパスで得点を狙うも惜しくも決まらず、試合終了のブザーが鳴り響いた。福岡県の猛攻を最後まで集中して守り抜いた香川県が３位入賞を果たした。

■決勝

茨城県　28（12 − 6、16 − 11）17　大阪府

全国三冠を狙う茨城県と第40回大会以来の優勝を目指す大阪府による決勝戦は、大阪府のスローオフで決戦の火蓋が切って落とされた。立ち上がり、茨城県は齊藤の鋭いカットインや江口の速攻で得点を重ね、堅実なディフェンスとGK宝田の好セーブでリードする。大阪府も負けじと西村のポストプレーやロングパスを中心に攻め、20分川上のパスカットで２点差まで詰め寄るも、茨城県の勢いを止めるには至らず、前半終了間際にも茨城県沼田がサイドシュートを決め、茨城県が６点リードで折り返す。

後半も茨城県は齊藤や小林を軸に攻撃の手を緩めず、大阪府を突き放しにかかる。16分、巻き返しを図りたい大阪府はタイムアウトを申請し、西村の得点や高橋のサイドシュートで反撃する。その後も大阪府は懸命に追いかけるも茨城県の勢いは止まらず、最後まで集中力を切らさなかった茨城県が全国三冠の栄誉を手に入れた。



4点共　写真提供：スポーツイベント社

第5回アジアビーチゲームズビーチハンドボール競技

5TH ASIAN BEACH GAMES



大会期間：2016年9月24日(土)－10月3日(月)
開催地：ベトナム・ダナン

最終順位

男子	女子
優　勝：カタール	優　勝：ベトナム
準優勝：オマーン	準優勝：中国
3　位：パキスタン	3　位：タイ
4　位：ベトナム	4　位：チャイニーズタイペイ
5　位：バーレーン	5　位：ヨルダン
6　位：**日本**	6　位：香港
7　位：タイ	7　位：**日本**
8　位：香港	8　位：インド
9　位：スリランカ	9　位：バングラデシュ
10　位：アフガニスタン	
11　位：インド	



選手団名簿

役職	名前	所属
団長	江成元伸	(公財) 日本ハンドボール協会
男子監督	氷海正行	(公財) 日本ハンドボール協会　ビーチ専門委員会
女子監督	大原康昇	(公財) 日本ハンドボール協会
男子コーチ	沖本哲郎	(公財) 日本ハンドボール協会　東海 Weeds ！
女子コーチ	山本沙貴	(公財) 日本ハンドボール協会　日本体育大学

男子

背番号	名前	所属	出身校
1	中野陽平	東海 Weeds ！	国際武道大学
2	高橋宏治	東海 Weeds ！	東海大学
3	高野克也	日本体育大学	九州学院高等学校
4	高良優樹	東海 Weeds ！	日本体育大学
5	田貝　基	日本体育大学	群馬県立富岡高等学校
6	細川智晃	日本体育大学	北陸高等学校
7	小田純矢	東海 Weeds ！	日本体育大学
8	緒方雄人	日本体育大学	東京都立東大和高等学校
9	奥野晃宇	日本体育大学	宮崎県立宮崎南高等学校
10	花宮　匠	日本体育大学	大分県立大分雄城台高等学校

女子

背番号	名前	所属	出身校
1	中谷香織	日本体育大学	国際武道大学
2	小田麻衣	日本体育大学	日本体育大学
3	沓掛絵里奈	日本体育大学	日本体育大学
4	谷川祥子	日本体育大学	神奈川県立川和高等学校
5	田畑留菜	日本体育大学	埼玉栄高等学校
6	真田翠里	日本体育大学	文化学園大学杉並高等学校
7	小笠原あずさ	日本体育大学	青森県立青森西高等学校
8	柴田万緒	日本体育大学	大谷高等学校
9	福澤　彩	日本体育大学	栃木県立栃木商業高等学校
10	勝田彩郁	日本体育大学	昭和学院高等学校

第5回アジアビーチ大会に参加して

ビーチハンドボールチームリーダー　江成 元伸

会場地であるベトナム・ダナンは日本からそれほど遠距離でもなく、飛行機の移動、乗り継ぎに関しては特に苦労はなかった。現地のホテルは四つ星で、食事、部屋等生活面では快適で、試合に専念できる環境であった。ホテルから会場までの移動はシャトルバスを利用したが、時間通りの計画輸送で全く支障はなかった。他国選手団との乗り合いが多く、短い時間ではあったが、それぞれの国のわかりやすい歌を交歓し、友好ムードは高まっていた。大会初日終了後、熱中症の症状で複数の選手の体調不良があり、夜間にもかかわらずJOCドクターの往診をいただき大変お世話になった。幸いにも選手たちは翌日には回復し、元気に試合に出場した。試合会場は2コートあり、1コートはナイター照明と観客席付き、もう1コートは立ち見席という設定だった。男女ともに午前、午後と試合時間が異なっていたため、それぞれの応援をする事ができた。特に、男子の応援の際は、11名の女子選手役員が大声で日本コールをすることで、1000人程度の満員の観客席で、地元の観客の応援を得るという盛り上がりをみせた。

男女ともにもう少し上位に食い込めたはずだという反省が多く、終了後の反省会では次回必ず雪辱するという声が多く、次の大会での活躍を期待するところである。全ての行事が終わり、またこの大会に参加したい、もっと強いチームになってほしい、国内の大会も盛り上がってほしい、と思う大会であった。JOCを始め、日本協会、関係者の皆様には多くのご尽力を賜り深く感謝申し上げ、誌面をお借りしてお礼を申し上げます。

男子

男子監督　氷海 正行

本大会の選手選考は平成27年度の主要国内大会である第19回ビーチハンドフェスタ・サマーカップ富浦さざ波大会(8月8・9日)、第17回全日本ビーチハンドボール選手権大会(南知多町・8月22・23日）の出場選手及び、元全日本選手から平成28年1月9日（土）に選考委員会を開催、ビーチハンド委員長大原、強化部長氷海、審判運営委員長仲田、強化部辻で選考を行い、10名を選考した。強化合宿は1回目を8月4日～7日に富浦海岸で行った。2回目は8月24日～28日に神戸市で行った。2回の合宿後半には国内の大会が組まれており、実践を重視した強化合宿であった。

9月23日ベトナム時間午後6時過ぎにホテルに到着した。フロントで部屋割表と鍵を受け取り、各部屋の状態を確認し、自室に入る。24日朝ロビーで、ダナン大学の学生ボランティアの日本チーム担当者と合流した。今日の練習計画が立てられていたが、事情を話しバーレーンチームとのテストマッチを午前10時に練習場で行うことを告げた。試合会場はホテルからバスで移動し、約20分で到着した。午後3時からテクニカルミーティングが開催され、25日～10月2日までの競技日程と使用ユニホームを確認した。競技はAグループ5チーム、Bグループ6チームの予選リーグを行った後、順位決定戦が行われた（日本はBグループ)。

大会期間中は天候にも恵まれ、チームスタッフも前大会経験者が多くスムーズに活動が出来た。体調を崩す選手も数名いたが、JOCのドクターに診て戴き大事には至らなかった。感謝します。

〈戦評〉

Bグループ：6チーム予選リーグ

■9月25日（日）

日本　1（17－12・11－17・4－5）2　香港

第1セットは立ち上がり香港に連取されるも、その後4連取し逆転、ディフェンスの足が良く動き相手の攻撃を防いだ。オフェンスでは細川が連続得点を決め勢いづき、日本が制した。

第2セットは相手の攻め方がスカイシュート中心に変わったが対応が出来ず、2名のレッドカード者を出し、香港が点数を重ね、セットを失った。シュートアウトはGK奥野が2人を止めたが、日本は3人がシュートを外してしまい負けた。

■9月26日（月）

日本　0（14－25・7－26）2　オマーン

第1セットは立ち上がり、相手チームの長身を活かしたプレーに対応できず3連取される。細川、田貝のシュート（ピルエット）で追いかけるも相手の連続得点により11点差をつけられ敗れた。

第2セットは相手のスカイシュートがことごとく決まり、3分で12点差をつけられところで、たまらず日本がタイムアウトを取った。その後も流れを変えることができず、そのまま試合終了となりオマーンが勝利した。

■9月27日（火）

日本　2（18－16・16－15）0　スリランカ

第1セットはお互い点の取り合いで点差が開かない中、田貝のパスカットから日本に流れを引き寄せ、中野、緒方のカットインに対し相手デフェンスが反応できず、ファールで退場となる。その後もチャンスを冷静に決め日本がリードし、そのまま逃げ切った。

第2セットは同じく点の取り合いの展開となる。相手のシュート（ピルエット）が回転不足で1点の判定となる。その後の攻撃で日本は確実に2点を取るもその後は一進一退の時間が続く。残り30秒日本が1点リードのところでGK奥野の好セーブにより日本のボールとなる。ここで日本はタイムアウトを請求した。次のプレーを確認し、最後のシ

ュートは外れたが、そのまま試合終了となり、日本が逃げ切った。

■ 9 月 28 日（水）

日本　2（18 ― 19・25 ― 22・7 ― 6）1　ベトナム

地元ベトナムとの試合、メイン会場はベトナムの観客で超満員。コートの声もかき消される状態で始まり、第 1 セットは立ち上がりベトナムに 3 連続得点される。なかなか点差が縮まらず、終盤まで進んでいく。GK 奥野の好セーブにより点差を詰めることに成功し、残り 20 秒で高良の 2 点シュートで日本が 1 点リードとなるも、残り 11 秒ベトナムのシュートが決まりベトナムが制する。

第 2 セットは点の取り合いで進み、疲れの見え始めた 6 分過ぎに日本がタイムアウト。またしても GK 奥野の好セーブから流れは日本へ。試合終了間際に日本が 3 連続得点をあげ制する。

シュートアウトはベトナム先攻で 1 人目のシュートを GK 奥野が好セーブ。2 人目はラインクロスで得点できず。日本は 3 人がシュートを決め、4 人目の田貝が確実に 1 点シュートを決め勝利した。

■ 9 月 29 日（木）

日本　2（24 ― 19・20 ― 17）0　アフガニスタン

第 1 セットは相手のコートキーパーに 2 点を取られるもすぐに取り返す。連戦の疲れから昨日までの動きができず、その後も点の取り合いとなり終盤までもつれ込む。終了間際に細川、高良、GK 奥野が連続得点を上げ、日本が制する。

第 2 セットは相手に得点を重ねられるも、シュートが回転不足の判定になり 1 点となる。日本は相手の戻りが遅い所を突き、2 点シュートを積み上げてリードを保ち、逃げ切ることに成功した。

これにより明日から 5 ～ 8 位決定戦に進む。

■ 9 月 30 日（金）

日本　2（18 ― 24・23 ― 22・7 ― 3）1　タイ

第 1 セット、タイは長身ポストにボールを集め、スカイプレーで点数を重ねる。一方日本は、高良、細川の 2 点シュートで応戦する。終盤タイはキーパーの好セーブもあり、連続得点を上げ日本を突き放し、タイが制する。

第 2 セットは日本は高良、細川の 2 点シュートが決まり一進一退の攻防が続く。途中交代した GK 花宮が好セーブをすると、流れは日本へ。終了間際に 6m スローを細川が落ち着いて決めシュートアウトへ。

シュートアウトは GK 奥野の好セーブ、タイのシュートミ





スにより得点できず。日本は 3 人連続で 2 点シュートが決まり、4 人目田貝が 1 点シュートを確実に決め勝利した。明日の 5 ～ 6 位決定戦に進む。

■ 9 月 30 日（金）

日本　0（18 ― 20・12 ― 13）2　バーレーン

第 1 セット、前半バーレーンペースで試合が進み点差を広げられる。後半、緒方、高良、細川、高橋の連続得点で日本が逆転する。終了間際にバーレーンに 2 点シュートを連続で決められ 2 点差でバーレーンが制する。

第 2 セット、後がなくなった日本はスローペースで試合を展開する。お互いに得点が伸びないまま試合は進む。残り 1 分バーレーンがシュートを外したところで日本がタイムアウトを請求。タイムアウト明け細川の 2 点シュートが決まり同点に。バーレーンが残り 18 秒でタイムアウトを請求し攻撃の確認をするも GK 奥野がバーレーンのシュートを止め、ゴールデンゴールの延長へ。ジャンプボールはバーレーンが制し、そのまま 1 点を決め勝負あり。健闘するも一歩及ばず。参加 11 チーム中 6 位の成績で本大会を終える。

前回のタイ（プーケット）大会の経験を持つ小田、高良、中野、奥野の 4 人に 6 名の学生を加えた 10 名の選手編成を行った。短期間の強化合宿しか行えなかったが、選手達は全力を出し切り、且つ、全員のまとまりも良く充実した大会であった。男子チームの目標は、前回より上位の順位を目指したが、前回と同じ 6 位であった。上位チームとの差は国際試合の経験数とシュート（ピルエット）の巧みさが主に挙げられる。国際試合に関しては協会の事情もあり難しいかもしれないが、シュートに関しては練習量を増せば解決できる。ただ、練習したくてもできる場所が無いのが現状である。是非、我々が練習できるビーチスポーツ施設の設置をお願いしたい。

【今後の対策と課題】

①国際試合経験を多く積み、どの様なチームにも柔軟対応できる、強い意志と技術を養う。

②シュートの練習量を多くして、シュートの正確さを身につける。

③上位のチームと体格（特に身長）の差はあるが、その対策としてスピードとスタミナを養い対抗する。

④チームとしての強化合宿は日程が限られるので選手各自に課題を与え、個人練習量を増す。

【選手村の生活】

今回はホテルであったので住居は快適であった。部屋については毎日メイドさんが来てくれて、ベッドメイキング・掃除・洗濯（一人２品限定）を行ってくれて快適であった。食事については、毎日ほぼ同じメニューで難があった。食欲旺盛な年齢の男子選手にとって、ベトナム料理の味付けに馴染めない選手が多くいた。

試合の準備については、ホテルの一室に集まり前日に対戦相手のビデオを見ながら、前半、監督・コーチが参加し、その後に選手同士でミーティングを行いとても良いチームワークが築けた。

競技会場の輸送関係に関しては、毎日、１時間に１本の大型バスが待機して他国の選手と相乗りで、競技会場とホテルの往復であった。

チーム担当ボランティアに関しては、大学生で英語と片言の日本語での会話であった。熱心な対応であり、よい関係が築かれ、帰りにはお互いにプレゼント交換も行われた。

最後にアジアビーチゲームズに参加させて戴いたJOC、日本ハンドボール協会に深く感謝し御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

男子主将　小田純矢

はじめに、第５回アジアビーチゲームズ（ダナン）に参加するにあたって、多くのご支援を頂き深く御礼申し上げます。さらに、日本から数多くの心温まる応援メッセージを送って下さった方々に感謝申し上げます。

今大会はチームで「メダル獲得」を目標に掲げ大会に参加しました。予選リーグの組み合わせを見てもオマーン以外のチームはそれほど実力差がないので十分に戦えると思いました。チームの作戦としては、早いパス回しからの広いスペースでのピルエットシュートを中心とした攻撃と、高めの牽制をかけてピストンディフェンスを行う守備をしました。

初戦の香港はビーチハンドボールを専門でやっている選手はおらず、普段はインドアのハンドボールをやっている大学生や社会人のチームでした。１セット目は差をつけて取ることができましたが、２セット目は接戦となり、そのセットを落として、ショットアウトも落としてしまいました。初戦はリズムに乗れない傾向があるので、気を引き締めて臨むべきでした。実力的にも負ける相手ではなかったが故に試合後は多くの選手が気落ちしてしまいました。試合後のミーティングで気持ちの切り替えを図りました。世界選手権入賞のオマーンは選手のほぼ全員がインドアでもナショナルの選手として活躍しており、オフェンス・ディフェンス面ともに実力差を見せつけられる試合となってしまいました。負けてしまったものの、世界のレベルを経験する良い機会になりました。オフェンスではオフェンスキーパーのシュート力やパス回しの正確性の高さ、スカイプレイとピルエットシュートを組み合わせたコンビネーションプレーは今後の日本の攻撃に取り入れていくべきものが多くあり、収穫の多い試合となりました。続くスリランカ戦は勝負どころで相手にミスがあり２－０で今大会初勝利することができました。なかなか勝ち星がとれなかったので、この勝利で私達の肩の荷が下りたような感じがしました。第４戦のベトナムに負けてしまうと上位リーグ進出が途絶えてしまう状況でした。ベトナムは開催国ということもあり、多くのサポーターが会場に来ており、多くの声援が飛び交う状況でした。１セット目、序盤は相手に点を決められ離されたものの、日本も点を重ね、ディフェンスも相手の得意とするポストのスカイプレーを封じることで一進一退の状態が続きました。残り数秒で相手のジョーカーに点を決められ、１点差で１セット目を落としてしまいました。２セット目は立ち上がりから日本のペースでゲームを進めることができ、勢いをつけて２セット目を取ることができました。ショットアウトも２セット目の勢いのままに先行し、GKも２本止め４人目の選手で試合を決めることができました。完全アウェイの状態で勝利をつかむことができ、今までで最も楽しむことのできた一戦となりました。予選最終試合のアフガニスタンも２－０で勝利を収めることができ、予選を３勝２敗で終えることとなりました。予選の試合が全て終わり、オマーンが全勝で１位、日本・ベトナム・香港が３勝２敗で並びました。大会当初にテクニカルミーティングで配布された規則では複数チームの勝敗が同じ場合は得失セット、直接対決、得失点差で決まることになっていました。日本とベトナムが香港よりもセット数が多くベトナムに直接対決で勝っていたので、私達は２位で上位リーグにいけると思っていました。翌日のテクニカルミーティングで２位がベトナムとなり下位リーグに入ることになりました。選手間でもなかなか状況が理解仕切れない部分もありましたが、気持ちを切り替えてその日のタイ戦に向けました。タイは今年から行われているアジアユースのビーチハンドボールで優勝するなど、ビーチに力を入れている国です。体格を生かしたポストスカイに苦戦しましたが勝利することができました。５・６位決定戦のバーレーン戦は前半・後半ともに接戦となったものの、経験値の勝る相手に２セット連取され６位となりました。

今大会の強豪国のオフェンスは早いパス回しは行わず、ゆっくりと時間をかけて攻めるのが主流でした。決勝などを見ていると、一回のミスがそのセットの勝敗を決めていました。日本は速攻や早いパス回しから生まれたスペースを狙う戦い



方をしていたのですが、大会中盤にオフェンスの攻め方を変えてスローオフェンスにすることによってオフェンスのミスを少なくし、ロースコアの試合展開をすることができ、大会中に成長していることを実感できました。

今大会はメダルを狙えることを実感することができる大会でした。ビーチハンドボールで参加する国際大会は今大会のみと、世界と戦う機会はまだまだ少ないですが、日本でもビーチハンドボールが普及して、次の大会で日本が良い結果を残せるように自分にできるサポートを今後も行っていきたいです。

本大会を戦うに際し、ご支援とご協力戴きました多くの方々、誠にありがとうございました。

女子

女子監督　大原 康昇　コーチ　山本沙貴

ベトナム（ダナン）にて９月24日から10月３日まで開催された、「第５回アジアビーチゲームズ」に参加致しました。女子は出場する９チームがA・Bブロックに分かれ、日本はBブロック（タイ、中国、インド、バングラデシュ）で予選リーグを戦いました。前回大会優勝のタイと長身揃いの中国、この２戦は苦しい戦いになる事を予想し、何としてでもと食らいついたのですが、残念ながら５位以下の順位決定戦に回る事となりました。その後の順位決定戦では香港に敗れ、7・8位決定戦でインドに勝利して日本は７位となりました。

〈戦評〉

Bグループ　５チーム予選リーグ戦

■９月26日

日本　０（9－11・16－22）２　中国

雨の中の試合となった。試合開始から、小田と沓掛が中国の攻撃を翻弄する守りを見せ、ゴールキーパー小笠原のナイスセーブも続き、中国を11点に抑える事が出来た。しかし、オフェンスでのミスが続き、あと２点が足りないところでタイムアップとなった。

２セット目、中国の攻撃は長身を活かしたスカイプレーに変化した事で連続得点を許してしまい、初戦黒星となった。

［個人得点］中谷：12点、谷川：6点、田畑・真田・勝田：2点、沓掛：1点

■９月27日

日本　２（18－5・15－12）０　インド

アジアビーチゲームズ４回目の出場となる沓掛を中心に、運動量あるディフェンスでインドを５点に抑えた。速攻での連続得点と、真田のピルエットシュートに対しての反則で得た6mスローを谷川が決めて１セット目を制した。

２セット目、インドのピルエットシュートが決まり、12点の得点を許す事となった。日本は、中谷を筆頭にピルエットシュートを決めセットを獲得するが、シュートミスの目立つゲームとなった。

［個人得点］中谷：12点、谷川：8点、真田：6点、田畑：3点、沓掛・勝田：2点

■９月28日

日本　０（12－19・13－18）２　タイ

ゴールキーパー小笠原の好セーブが目立つも、タイの得意とする速攻での得点が重なり19点の失点となった。日本は田畑が果敢に相手の警告プレーを引き出す攻撃をするが、追いつけないままタイが１セット目を制した。

２セット目、開始から日本はいい流れで得点を重ねた。小笠原の好セーブが続き、遂に日本はタイをリードした。ディフェンス陣の沓掛と小田の二人がレッドカードで退場となってしまったが、連戦で着々と力を付けた柴田がリーダーシップを発揮し、日本は勢いあるプレーが続いた。しかし、日本の得点が止まっている間にタイは確実にピルエットシュートを決め、あと一歩のところでタイの勝利が決まった。

［個人得点］中谷：9点、谷川：6点、真田：4点、沓掛・田畑・勝田：2点

■９月29日

日本　２（21－5・24－6）０　バングラデシュ

日本は、バングラデシュにプレーをさせない運動量ある守りを見せた。田畑の連続得点と相手の警告を引き出すカットイン、中谷の安定した２点シュートが決まり、バングラデシュが日本に追いつく隙を与えなかった。福澤も、着実に力を付けたピルエットシュートを決め、日本は両セットとも20点を超えるシュートを決めた。

［個人得点］中谷：12点、田畑：11点、谷川：8点、小田：5点、沓掛・真田・小笠原・福澤：2点、柴田：1点

順位決定戦

■９月30日

日本　０（14－19・16－23）２　香港

ジャンプボールを香港が取り、そのまま得点につなげた。日本は動きが固く、流れを引き寄せる事が出来ない。２点プレーヤーの谷川と田畑が、ミドルシュートとカットインを決めるも、香港の点数を止めきる事が出来ず１セット目を落とす。

２セット目を絶対に落とす事の出来ない日本は、スピードのある動きを意識するも、シュートまでのミスが連続してしまう。動きの調子を取り戻し始めるも、香港の得点を抑えることが出来ない。中谷と谷川が果敢に前を狙うが、香港が両セットを獲得した。日本は7・8位決定戦へ。

［個人得点］谷川：16点、中谷：6点、田畑・真田：4点



7・8位決定戦
■10月1日
日本　2（24－16・20－9）0　インド

インドのスローペースな攻撃になかなかリズムが合わず、16点の失点となったが、日本は持ち味である4人速攻での攻撃で相手の警告プレーを誘った。中谷のピルエットシュート、田畑のカットイン、谷川の6mスローで得点を重ね1セット目を制した。2セット目、小田がディフェンスの指揮をとり、相手のミスを誘うフットワークを繰り返してインドにほとんどシュートを打たせなかった。1セット目に引き続き中谷と田畑のシュートで日本は得点を重ね、インドがリードする隙を与えなかった。参加9チーム中7位の成績で本大会を終える。

［個人得点］中谷・田畑：14点、谷川：12点、真田・柴田：2点

前回のタイ（プーケット）大会の経験を持つ中谷、沓掛、小田、谷川の4人を中心に、3位以上を目標としてこの大会に臨みました。練習時間と場所が十分に確保出来ない中、選手は2点シュートにこだわり熱心且つ前向きに取り組んでくれました。メダル獲得という結果は残せませんでしたが、女子全チームのゴール数ランキングでは、中谷が1位、谷川が4位という記録を残しました。ベスト4に進んだチームとの差は、国際試合の経験数と、攻撃面では攻撃の幅の巧みさ、（2年前に比べて他国はスカイプレイを多用した攻撃スタイルに変化）ピルエットシュートの確実性であると感じました。ディフェンス面ではスカイプレイ対策、シャット（シュートブロック）の技術向上が主に挙げられます。日本のビーチハンドボールは更に上の段階の技術を磨くと共に、攻撃の幅を広げなくてはならない事をチーム全員が痛感致しました。この経験を日本のビーチハンドボールに還元して、次こそ日本がメダル獲得となるよう取り組み続けたいと思います。

最後にアジアビーチゲームズに参加させて戴いたJOC、日本ハンドボール協会の皆様に深く御礼を申し上げますと共に、日本選手団の尾崎団長はじめ本部役員の皆様には24日の練習から、最終日まで全て応援に来て戴きながらよき結果が残せず申し訳ありませんでした。お忙しい中、並々ならぬお世話を戴き、本当にありがとうございました。

女子主将　中谷 香織

今大会を終え、上位国と十分に戦える力がついたと感じております。前回大会では、明らかに技術や戦術が発展し、確実に2点シュートで得点を重ねていく上位国に、日本は大きな差をつけられてしまったと感じました。この現状から、「2点シュートでの得点」がメダル獲得の絶対条件であるとチーム全体で共通理解し、積極的に2点シュートの練習に取り組んできました。その中で、ポストを入れない4人攻撃が有効的ではないかと考え、これを中心とした日本独自の攻撃スタイルが定着し始めました。未熟な部分も多く、シュート前のパスミスや、シュートチャンスに決めきる事が出来ない場面もありましたが、他国に通用する戦術である事を確信しました。また、ゲームの流れを見て、ポストを入れた攻撃やスカイプレーなど、プレーの幅を広げる事も重要であると感じ、新たな収穫となりました。

一方、守備では数的不利である事から、牽制を繰り返す事によって相手のミスを誘い、シュート確率の低いところにボールを集めるなど対戦国によって守り方を変化させました。ビーチハンドボールは、インドアのハンドボールに比べ、接触プレーに対してのジャッジが非常に厳しい為、激しいディフェンスは退場と隣り合わせとなります。この事から、点の取り合いがビーチハンドボールだと言われておりますが、日本の守備は相手の足を止め、キーパーの好セーブもあり何度も流れを変えました。しかし、上位国はどこのポジションからでも2点を獲得する力と、ミスが少ないという特徴があります。日本のビーチハンドボール競技が更に発展する為にも、全ポジションの選手が2点シュートの技術を磨いていかなくてはなりません。

最後になりましたが、毎日会場に足を運んでくださったJOCの方々、そして日本ハンドボール協会の皆様、このような貴重な経験をさせて頂きました事を深く御礼申し上げます。この経験を、日本のビーチハンドボール普及発展、そして強化に還元出来るよう、これからもメダル獲得に向けて挑戦し続けたいと思います。



U-16日韓スポーツ交流（派遣・受入）

男子
派遣：2016年9月19日(月)－24日(土)
韓国・仁川
受入：2016年10月26日(水)－31日(月)
沖縄県・豊見城市民体育館

女子
受入：2016年9月7日(水)－12日(月)
愛知県・名古屋市（ブラザー工業体育館）
派遣：2016年10月16日(日)－21日(金)
韓国・仁川

(公財)日本ハンドボール協会 育成部長兼U-16日本代表 男女団長 尾石智洋

代表としての誇りを胸に戦いに挑んだ選手スタッフ。事業初の男女とも親善試合負け無しという結果でした。将来の日本のハンドボール界に光の見える結果です。育成期に勝ちばかり求める事はよくありませんが、発達に合わせたスキルアップを目指し、また誇り高き日本代表を目指し戦ってくれました。

結果はもとより、日本のジュニア世代の技術力は間違いなく向上しています。そして、まだまだ未熟な技術力も多々みつかりました。選手たちは明らかになった課題を速やかに克服し、今後さらに必死に取り組むことを誓ってくれました。

このような技術力が高まっている背景には、小学生・中学生の指導者の方々の情熱的かつ献身的な取り組みがあります。今後、韓国や諸外国の指導も含め、さらに日本の指導者がハンドボールの基礎基本を全国で共有出来るようしていくことが更なるレベルアップになると思います。「判断力を育成するための基礎基本の習得」を前面に出し、様々な指導改革に努めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

最後に、活動にあたり御尽力いただきました沖縄県協会、愛知県協会、日本リーグ、各関係者の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。

男子

役職	名前	所属
団長	尾石智洋	(公財)日本ハンドボール協会 東久留米市立西中学校
監督	小波津周史	(公財)日本ハンドボール協会 浦添市立浦添中学校
コーチ	大原雅広	(公財)日本ハンドボール協会 守谷市立けやき台中学校
トレーナー	薄　勝也	(公財)日本ハンドボール協会 いちはら病院

背番号	名前	所属	出身校
1	廣上永遠	広島山陽学園山陽高校	呉市立呉中央中学校
2	蔦谷大雅	大阪体育大学浪商高校	大阪体育大学浪商中学校
3	木切倉志佑	宮崎県立小林秀峰高校	小林市立三松中学校
4	堀部竜矢	岐阜市立岐阜商業高校	ヴァルト岐阜
5	牧野渓一郎	山口県立岩国工業高校	岩国市立岩国中学校
6	窪田礼央	富山県立氷見高校	氷見市立西條中学校
7	安平光佑	富山県立氷見高校	氷見市立西條中学校
8	中谷仁義	金沢市立工業高校	小松市立板津中学校
9	内田光映	大同大学大同高校	名古屋市立植田中学校
10	青　雅俊	昭和第一学園高校	東久留米市立西中学校
11	治田大成	北陸高校	豊田市立高橋中学校
12	笹本穣太郎	北陸高校	ヴァルト岐阜
13	榎本悠雅	茨城県立藤代紫水高校	守谷市立けやき台中学校
14	大津慎吾	大分県立大分雄城台高校	大分市立稙田西中学校
15	石田知輝	京都府立洛北高校	京田辺市立大住中学校
16	西原雄聖	浦添市立神森中学校	浦添市立神森中学校

女子

役職	名前	所属
団長	尾石智洋	(公財)日本ハンドボール協会 東久留米市立西中学校
監督	麻生　薫	(公財)日本ハンドボール協会 倉敷市立東中学校
コーチ	藤高　学	(公財)日本ハンドボール協会 下松市立下松中学校
トレーナー	内田春菜	(公財)日本ハンドボール協会 山中接骨院

背番号	名前	所属	出身校
1	下馬場　燎	京都府立洛北高校	京田辺市立田辺中学校
2	橋口和佳奈	宇城市立松橋中学校	宇城市立豊福小学校
3	伊藤実咲	埼玉栄高校	学法埼玉栄中学校
4	橘高由衣	高水高校	周南市立岐陽中学校
5	瀧川璃紗	佼成学園女子高校	東久留米市立西中学校
6	岡田彩愛	高水高校	岩国市立平田中学校
7	伊波優里	沖縄県立浦添高校	浦添市立港川中学校
8	守屋葵	川崎市立高津高校	横浜市立岩崎中学校
9	酒井優貴子	福井県立福井商業高校	福井市明倫中学校
10	久保奈津季	福井県立福井商業高校	福井市明倫中学校
11	江本ひかる	高水高校	岩国市立岩国中学校
12	上嶋亜樹	小松市立芦城中学校	小松クラブ
13	高木朔来	高岡向陵高校	氷見市立十三中学校
14	佐藤優花	佼成学園女子高校	武蔵村山市立第五中学校
15	藤井咲良	小松市立芦城中学校	小松クラブ
16	柿添まどか	玉名市立玉名中学校	玉名市立玉名町小学校



参加報告

日本男子代表子 U-16 監督
小波津 周史

今回、「韓国に勝つ!!」という目標を掲げ、6月から3回強化合宿を実施し臨んだ日韓交流戦。初めは、U16の選手全員が、韓国のチームと戦ったことも試合を見たこともない状況だったためイメージを作るために、先に行われた男子ユースアジア大会の日本対韓国戦を見る事から始めました。そこで、韓国のチームスタイルを確認しました。また、今回の韓国チームのユース代表とU-16のヘッドコーチが同じ人だと知らされ、チーム戦術も似たチームだと予想し、対韓国戦をどう戦っていくかをスタッフで確認し、選手に伝えトレーニングに臨みました。日本の戦術としては、DFは、韓国の得意とする個人技（フェイント）やポストプレーを防ぐために、クロスアタックを取り入れた6-0。OFは、きっかけから相手DFを広げそのスペースに強い縦の1：1を仕掛けポストの動きを絡め、プレーを継続しノーマークを作る戦術を、短い合宿日数でしたが徹底的にトレーニングし韓国戦（訪韓）に臨みました。

韓国でのゲームは、30対30と引き分けでした。課題は、DFで韓国の1：1はリズムを崩し何とか対応はできましたが、バックプレイヤー＆ポストとセンタープレイヤー＆ポストの2：2でDFを崩される場面が多く見られました。OFは、韓国のフットワークを行かしたDFを強くスペースを攻めることができ得点を重ねることができました。チームとして次の合宿では、ポストの守り方を確認し強化していくことを課題として帰国しました。

次の受入では、トレーニングの前に前の試合の映像を見て韓国で課題だったDFの確認をし、主にDFトレーニング（ポストの守り方）を中心にトレーニングを行いました。しかし、合宿初日にキャプテンでCBの安平選手が、足首をひねり負傷するというアクシデントがあり、チームも暗いムードになっていましたが、その時、副キャプテンの石田選手の「どんな状況でも韓国に勝つことだけを考えよう!」の強い声かけからチームが一つになっていきました。また、訪韓の時に肺炎のため出場できなかった榎本選手を代わりにCBでゲームの組み立てを任せました。その結果、OFでは、榎本選手のボール回しから両BPの窪田・蔦谷選手のシュートや中谷選手の切れのあるサイドシュートも決まりました。また、DFも機能し韓国の失点を20点で抑え、21対20で韓国に勝つことができました。

今回の日韓交流事業を通しU16のカテゴリーは、国際大会ではないがナショナル選手に入るための登竜門と考え、「人間力向上」をテーマに掲げ取り組みました。選手一人一人が意識し行動した結果が、韓国に負けなかった大きな要因だと考えます。これからも、今回のU-16の選手が、次のカテゴリーで活躍しオリンピックでも



活躍できる選手になることを願い、ご報告を終了させていただきます。

参加報告 日本男子代表子 U-16 キャプテン 安平 光佑

僕はこのU16でとてもいい体験をしました。はじめて海外へ行き、緊張感の中、韓国代表と試合をしました。満足のいく結果ではありませんでしたが、素晴らしい体験となりました。また、韓国の人と仲良くできてよかったです。お互いの文化交流が出来ました。また、日本ラウンドでは自分は怪我で出られませんでしたが、チームの仲間が頑張ってくれて勝つことができてとても嬉しかったです。自分はもっと努力をして、上のカテゴリーに上がって世界を目指したいです。応援ありがとうございました。

参加報告 日本女子代表子 U-16 監督 麻生　薫

日韓交流は今年で第20回目を迎えました。日本の様々な活動・取組など、各方面での努力の結果、ここ数年では韓国チームに勝利することができるようになり、日本の力が徐々に向上していることを実感しています。全活動10日間という短期間の活動の中で、韓国に勝つために、今回はある1つのことを重要課題として取り組みました。選手主体の「ボトムアップ・チームビルディング」です。選手同士の話し合いによって戦術やトレーニングのポイントが明確になっていくわけですが、今回特に感じたのは、選手自身がDFシステムをきちんと理解した上で、アレンジし発展できたこと、また、スタッフのアイディア、選手のアイディアが相互に影響しあってOF・FBの戦術をMTGの中で決められました。こうした取り組みの中で、チーム力・個人技能の向上、勝利という成果に繋がったと感じています。

しかし、韓国チームのパワーやスピードは、未だ脅威であり、見習うべき部分だと思いますし、他国での食事や環境の変化など、アウェイでの強いストレスに対する課題は浮き彫りになり、今後の課題としてしっかりと受け止めていきたいと考えています。

関係者の皆様、御支援・御協力ありがとうございました。

参加報告 日本女子代表子 U-16 キャプテン 瀧川 莉紗

私たちは、日本代表女子U-16として日韓親善スポーツ交流に参加させていただきました。今年私たちは「打倒韓国！～やりきる 勝ちきる 倒しきる～」という目標を立て、先生方が提案してくださった事をみんなで考えて実行する「ボトムアップ」というチーム・ビルディングに挑戦しました。最初はやっていけるのか不安でしたが、練習していくうちに自分達なりに理解・実行して、チームがまとまっていくのを感じました。日本ラウンドでは、韓国に勝利することができて、今まで自分達がやってきた事は間違っていなかったと自信をもつことができました。そして試合中に合わなかったプレーを訪韓への課題としました。訪韓では覚悟を決めて戦いましたが同点に終わってしまい、勝ちきれなかった悔しさが残りました。けれど、最後まで粘れたのも練習の成果だったと思います。また、海外へ行ったことのない選手も多く、環境にも食事にも慣れるのがとても大変でしたが、こうした経験をする事ができてよかったです。

今回、U-16女子としてとても貴重な経験をし、最高のメンバーで戦うことが出来ました。私たちに関わっていただいた全ての方に感謝して、これからハンドボールをプレーする上で、活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



戦　評

男　子

派遣：日本　30（12－11、18－19）30　韓国

韓国仁川での一戦。先制点は日本の安平のスカイプレーで鮮やかに決まる。韓国はバックプレーヤーとポストプレーヤーの洗練されたコンビプレーで加点し、すぐに逆転される。日本は「アウェイの笛」になかなか対応できず、テクニカルミスを繰り返し流れがつかめない。3点差をつけられ日本のタイムアウト。チームのオフェンス・ディフェンスでの約束事を再確認して試合再開。日本は前半の終盤にミドルシュートと速攻で連続得点し逆転に成功。12対11の日本リードで前半を折り返す。

ハーフタイムでは、これまで練習してきたオフェンスでの間を狙い、強い縦を狙う意識を高めていくこと、ディフェンスではバックチェックでの約束事を確認して後半に臨んだ。立ち上がりから前半とは違い、点を取り合う展開となった。日本は速攻を中心に、バランス良く点数をあげる。韓国はミドルシュートとポストプレーを徹底して狙い続ける。日本GK西原のファインセーブや両サイド石田・中谷のスピード溢れるカットインで勢いに乗り、韓国はたまらずタイムアウト。残り5分日本3点リード。ここから韓国の怒涛の追い上げが始まる。徹底してポストとカットインを狙い、日本に退場者が出る。そのチャンスを逃さず、相手のミスを誘う韓国が積極的なディフェンスから速攻で連続得点し、一気に同点とされる。日本は再び退場者を出し、試合残り7秒で逆転される。クイックスタートで蔦谷の強烈なロングシュートがゴールに突き刺さりゲームセット。30対30の同点で試合を終えた。悔し涙も流した日本チームだが、10月沖縄での日本ラウンドでのリベンジに挑む。

受入：日本　21（9－7、12－13）20　韓国

日韓交流戦男子日本ラウンドは、開始51秒で左腕エース蔦谷の豪快なミドルシュートでスタートした。韓国チームもゲームメーカーである、CBのキレのあるジャンプシュートやRBのカットインで応戦していたが、日本チームの長身、窪田・内田、青の強いプレッシャーに対し、思うように攻撃できず、攻めきれない場面が続いた。かたや日本も緊張感からパスミスやシュートミスが続き、スタートから10分間で3対4、15分間で5対5というスローペースでゲームが展開された。その膠着状態を打破したのは、日本チームエース窪田と左腕RW中谷である。韓国チームの退場をきっかけにロング・ミドルシュートを立て続けに決め日本チームを引っ張り、中谷の巧みなサイドシュートで前半の流れを完全に奪った。

後半に入ると、韓国の高いDFをCB左腕榎本を中心に持ち前の機動量を生かし、得点を重ねていくが、対する韓国チームも強い体を生かしたPVプレーで得点を重ね、一進一退の攻防を繰り広げていく。ラスト5分で両チームとも退場者が出たが、今回唯一の中学生プレーヤー西原の好セーブと牧野・中谷が韓国チームの隙を確実に仕留め、21対20で日本がゲームを制した。日本チームのゲームメーカー安平が怪我により、7mTのみの出場となるアクシデントに見舞われたが、選手それぞれの長所を生かしたチームプレーで韓国戦に臨むことができたのは大きい。また、左腕エース蔦谷をはじめとする榎本、中谷、治田、大津、5名のサウスポーの成長も注目すべき点である。

男子日本ラウンド終了をもって、本年度男女日韓交流事業の終わりを迎えたが、男女共、日本ラウンド勝利、韓国ラウンド引き分けという、韓国に負けず事業を終えることができた。これも選手たちの努力や成長によるものであり、この将来有望な選手たちの今後の活躍に注目していきたい。

女　子

受入：日本　25（15－10、10－11）21　韓国

韓国戦、前半の立ち上がりは、日本チームの4-2DFがうまく機能し、韓国の速い攻撃をうまく抑えることができ、立て続けに岡田、瀧川佐藤のミドルシュートが決まり、4対0の好スタートを切ることができた。韓国は、日本の高いDFに対し、PVでの攻撃を狙い始めたが、柿添の好セーブと持ち前の機動力を生かした、アグレッシブなDFにより、前半は終始優勢で終了した。

後半は引き続き、韓国の特徴である、速いフェイントを牽制と強いコンタクトで抑えつつ常に相手にプレッシャーをかけ続けることができた。柿添の好セーブにも助けられ、安定した強いDFから、岡田、江本の速攻が立て続けに決まり、日本が相手に流れを取られることはなく日本優勢のまま、25対21で日本勝利で幕を閉じた。

しかしながら、韓国チームの身体能力、個人技術は高く、持ち前のフェイント力やスピードは素晴らしいと感じられた。10月末に訪韓があるが、今回の反省や課題を踏まえ、第2回戦に向けて強化して行きたい。

派遣：日本　20（12－12、8－8）20　韓国

日韓交流戦韓国ラウンドは、日本の緻密なDFとパワーやスピードのある韓国の攻撃の戦いだった。日本チームの徹底した4-2DFに対し、韓国チームはポストプレーで日本チームのDFを崩そうとした。日本チームの機動力を生かしたDFは相手チームの攻撃を圧倒し、ややアウェイの笛に押されながらも粘りに粘るDFを実現させた。しかしながら、相手チームのパワーやステップワークの速さも大変素晴らしく、日本チームを苦しめた。前半ラスト4分では、9対12で劣勢ではあったものの、岡田の速攻と佐藤のサイドシュート、瀧川の7mTで同点まで追いつき終了した。

チーム発足当初から、「自分たち選手の力で韓国に勝てるチームを創る」と選手自ら課題を見つけ出し、自ら積極的に問題解決してきた。ハーフタイムでも、韓国チームの特徴や戦術などを選手たちの話し合いで共有した。後半の戦い方、考え方などの選手からアイディアを出した。韓国チームの控え選手の特徴と可能性まで話し合って共有し後半に備えた。

後半、韓国の得意プレーであるカットインで先制をされたが、すぐさま江本のサイドシュートで点を取り返した。急激な笛の変化に対し、不利な状況になっても動揺することもなく、粘り強くDFをすることを共有した。ラスト8分、17対19で劣勢であった日本は、瀧川・橘高・江本・岡田のシュートで20対19と逆転したが、ラスト25秒でサイドシュートを決められ、20対20の同点で試合終了となった。日本の機動力を生かした見事なDFとそれを具現化した選手の主体的な取り組みが印象的な試合であった。

大会案内

第25回 男子世界選手権

日程：1月11日(水)～1月29日(日)
場所：フランス



フランスで開催の2017年世界選手権（1月11日-29日）は参加24カ国が6チーム4つのグループに分かれて予選リーグが開催される。今年のアジア選手権で3位となった日本は3大会ぶりに出場する。1月11日(水)、パリのアコーホテルズアリーナでフランスとブラジルの開幕戦を皮切りに、全84試合が開始される。予選リーグは1月20日に終了し、パリ、リール、モンペリエとアルベールビルで準々決勝が続く。決勝はパリで1月29日（日）に行われる。

予選グループと日本の予選リーグAの対戦日程

組	会場（都市）	1	2	3	4	5	6
Aグループ	ナント	フランス	ポーランド	ロシア	ブラジル	日　本	ノルウェー
Bグループ	メス	スペイン	スロベニア	マケドニア	アイスランド	チュニジア	アンゴラ
Cグループ	ルーアン	ドイツ	クロアチア	ベラルーシ	ハンガリー	チリ	サウジアラビア
Dグループ	パリ	カタール	デンマーク	スウェーデン	エジプト	バーレーン	アルゼンチン

競技方式：予選ラウンド（上記4組リーグ戦）の後、各組上位4チームは決勝トーナメントへ、決勝トーナメント初戦は、A1-B4, A2-B3, B1-A4, B2-A3, C1-D4, C2-D3, D1-C4, D2-C3となる。予選ラウンド各組5, 6位はプレジデントカップ（順位決定戦）へ。


フランス・ナントのパルクデゼクスポジションホール

ナントは、フランスの西部、ロワール川河畔に位置する国内第6の都市。時差は-8時間、1月の平均気温は約8℃。

2017年1月12日（予選第1試合）：日本 vs ロシア
2017年1月13日（予選第2試合）：日本 vs フランス
2017年1月15日（予選第3試合）：日本 vs ブラジル
2017年1月17日（予選第4試合）：日本 vs ポーランド
2017年1月19日（予選最終試合）：日本 vs ノルウェー

今大会のグループAの他チームを見ると

	リオ五輪 2016年8月	欧州選手権 2016年1月	前回世界選手権 2015年1月
FRA	銀メダル	6位	優勝
POL	4位	5位	3位
RUS	—	—	19位
BRA	7位	—	16位
JPN	—	—	—
NOR	—	4位	—

直近の大会を見れば、フランスとポーランドが抜けており、ロシア、日本、ブラジル、ノルウェーが決勝リーグを目指して競り合う。

欧州選手権2016年1月のオールスターチームには、ポーランドとノルウェーから選ばれている。レフトバックのミハル Jurecki（POL）はポーランドのトップクラブ KS Vive の Tauron キェルツェに所属（31歳）、ノルウェーのセンターバックの20歳のサンダー Sagosen はオールスターチームに最年少で選ばれている。この二人に注目か。

過去の男子世界選手権の日本の成績

回数	開催年月日	開催地	参加国数	日本の参加回数と順位
1	1938/2/5-6	ドイツ	4	×
2	1954/1/11-17	スウェーデン	6	×
3	1958/2/27-3/8	東ドイツ	16	×
4	1961/3/1-12	西ドイツ	12	1〇12位
5	1964/3/6-15	チェコスロバキア	16	2〇16位
6	1967/1/12-21	スウェーデン	16	3〇11位
7	1970/2/26-3/8	フランス	16	4〇10位
8	1974/2/28-3/10	東ドイツ	16	5〇12位
9	1978/1/26-2/5	デンマーク	16	6〇12位
10	1982/2/23-3/7	西ドイツ	16	7〇14位
11	1986/2/25-3/8	スイス	16	×
12	1990/2/28-3/10	チェコスロバキア	16	8〇15位
13	1993/3/9-20	スウェーデン	16	×
14	1995/5/7-21	アイスランド	24	9〇23位
15	1997/4/17-5/1	日本・熊本	24	10〇15位
16	1999/6/1-15	エジプト	24	×
17	2001/1/23-2/4	フランス	24	×
18	2003/1/20-2/2	ポルトガル	24	×
19	2005/1/23-2/6	チュニジア	24	11〇16位
20	2007/1/19-2/4	ドイツ	24	×
21	2009/1/16-2/1	クロアチア	24	×
22	2011/1/13-30	スウェーデン	24	12〇16位
23	2013/1/13-27	スペイン	24	×
24	2015/1/17-2/1	カタール	24	×
25	2017/1/11-29	フランス	24	13〇

直近の男子代表名簿
（ヒロシマ国際、国際ナショナルサーキットから）

※第25回男子世界選手権の参加名簿ではありません。

背番号	名前	所属	出身校
5	高智海吏	トヨタ車体	大阪体育大学
6	加藤嵩士	大同特殊鋼	愛知大学
8	渡部　仁	トヨタ車体	日本大学
10	小室大地	大崎電気	日本体育大学
12	木村昌丈	大崎電気	日本体育大学
17	植垣健人	大崎電気	大阪体育大学
19	徳田新之介	筑波大学	岩国工業高校
20	酒井翔一朗	トヨタ紡織九州	大阪経済大学
21	甲斐昭人	トヨタ車体	日本体育大学
23	小塩豪紀	豊田合成	中京大学
24	信太弘樹	大崎電気	日本体育大学
25	元木博紀	大崎電気	日本体育大学
26	久保侑生	大同特殊鋼	筑波大学
29	東江雄斗	大同特殊鋼	早稲田大学
30	成田幸平	湧永製薬	大阪体育大学
31	銘苅　淳	日本協会	筑波大学
32	土井レイミ杏利	Chambery(FRA)	日本体育大学
33	志水孝行	湧永製薬	大阪体育大学
34	時村浩幹	大崎電気	大阪体育大学
35	藤本純季	トヨタ車体	早稲田大学
36	出村直嗣	豊田合成	筑波大学

～これぞ国体らしさ～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

2016　希望郷　いわて国体が「広げよう　感動。伝えよう　感謝」をスローガンに開催された。東日本大震災の復興に向けて力強い歩みも各地で見受けられたと、参加したアスリートやスタッフから話を聞き、人間力のたくましさを改めて感じた。

ハンドボール競技では、４種別ともおおむね予想通りの結果だった。成年男子は全日本社会人選手権を制した愛知・トヨタ車体が初優勝。女子も石川・北国銀行が社会人に続き２冠を達成した。少年の男子は山口選抜が逆転勝ちで頂点に立ったが、春の選抜大会、夏のインターハイを制した岩国工高主体で事実上の３冠。女子も茨城・水海道二高が３冠に国体初優勝で花を添えた。

そうした中で「これぞ国体」と言えるうれしい話題に触れることが出来た。

成年男子で４位に食い込む大健闘を見せた千葉選抜である。社会人の強豪クラブ、FOG に学生を加えた編成で大会に臨んだ。初戦は大阪・大体大に逆転勝ち、準々決勝は佐賀・トヨタ紡織九州に４点差で競り勝ち、準決勝は優勝した愛知・トヨタ車体に屈したが、３位決定戦に進み、宮城・トヨタ自動車東日本に逆転負けしたが、２点差という接戦だった。

国体の成年男女は日本リーグ勢がベスト４を独占してきた。選抜チームを編成しても、リーグ加盟チームからの選考だった。純粋に選抜を組んで出場して４強に食い込んだのは、19 年前にさかのぼる。1997 年の第 52 回大会の香川選抜以来の“快挙”である。

「戦後の荒廃と混乱の中で、スポーツを通して国民に、とりわけ青少年に勇気と希望を与えよう」と始まった国体。その後、改革されてはきたが「スポーツの普及、国民の健康増進と体力向上を図り、国民スポーツの振興とスポーツ文化の発展に寄与する」路線は、貫かれてきている。

言い換えれば、勝敗だけにこだわるのではなく、スポーツを通して健全な人間形成、さらには地方でのスポーツの普及、発展につなげようということだろう。

そうした意味からも今回の千葉選抜の躍進は、国体の趣旨に沿ったものと言えるのではないだろうか。日本リーグ勢を相手に対等な戦いが出来たことは、選手に希望と自信を植え付けただろうし、ハンドボールが根付く普及、振興にも役立つはずだ。他のハンドボーラーも結果に触発され「われわれも戦えないことはない」との希望を与えたことにもなるだろう。

そうした波が各地に押し寄せれば、普及はもとより強化にもつながり、球界にとっては喜ばしい限りである。千葉に続き「打倒日本リーグ」の熱い息吹きが来年もまたみられることを願っている。

いざというときしっかりサポート

傷害保険　賠償責任保険　突然死葬祭費用保険

スポーツ安全保険®

4 4名以上の団体・グループでご加入ください。



対象となる事故

団体活動中の事故／往復中の事故

保険期間

平成28年4月1日午前0時から
平成29年3月31日午後12時まで

加入区分・掛金・補償額

加入対象者	補償対象となる団体活動	加入区分	年間掛金（1人当たり）	傷害保険金額 死亡	後遺障害（最高）	入院（1日につき）	通院（1日につき）	賠償責任保険支払限度額（免責金額なし）	突然死葬祭費用保険支払限度額
子ども（中学生以下 特別支援学校高等部の生徒を含む。）	スポーツ活動 文化活動 ボランティア活動 地域活動	A1	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	対人・対物賠償 合算1事故 5億円 ただし、対人賠償は1人1億円	突然死（急性心不全 脳内出血など）葬祭費用 180万円
	上記団体活動に加え、個人活動も対象 上段:団体活動中およびその往復中の補償額 下段:上記以外（個人活動など）の補償額	AW	1,450円	2,100万円	3,150万円	5,000円	2,000円 熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒の場合、保険金額はA1区分と同様	対人・対物賠償 合算1事故 5億500万円 ただし、対人賠償は1人1億500万円	
				100万円	150万円	1,000円	500円 熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒は対象となりません。	対人・対物賠償 合算1事故 500万円	対象外
大人（高校生以上）	スポーツ活動 スポーツ活動の指導・審判 ※右記年齢の判断は、「平成28年4月1日」と「掛金の支払い手続きを行う日」のいずれか遅い日の満年齢を基準とします。	C 64歳以下	1,850円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	対人・対物賠償 合算1事故 5億円 ただし、対人賠償は1人1億円 ⚠自動車事故によって賠償責任を負った場合は、補償の対象となりません。	突然死（急性心不全 脳内出血など）葬祭費用 180万円
		B 65歳以上	1,200円	600万円	900万円	1,800円	1,000円		
	文化活動 ボランティア活動 地域活動 準備・片付け・応援・団体員の送迎 ※スポーツ活動を行う場合は対象となりません。	A2	800円 ※65歳以上の方も加入できます。	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
全年齢	危険度の高いスポーツ活動	D	11,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

スポーツ安全協会  検索 インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。



携帯電話から資料請求ができます。

公益財団法人 スポーツ安全協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル8階 TEL03-5510-0022

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。 **http://www.sportsanzen.org** ●資料請求は、インターネットより受付けております。

この広告はスポーツ安全保険（スポーツ安全保険特約書に基づく傷害保険（スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）・突然死葬祭費用担保特約付帯普通傷害保険）、賠償責任保険（スポーツ安全協会賠償責任保険特約等付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）付帯普通傷害保険賠償責任担保条項））の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら（公財）スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険（株）までお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社（担当課）公務第2部 文教公務室
TEL 03-3515-4346（平日9:00～17:00）

〈共同引受保険会社（平成28年4月）〉
あいおいニッセイ同和　共栄火災　損保ジャパン日本興亜　大同火災　東京海上日動
日新火災　富士火災　三井住友海上

平成28年3月作成　15-T11271

2016NTS 北信越ブロックトレーニング

NTS 北信越ブロック運営委員長　**山口 和博**



北信越ブロックでは、2016年NTS北信越ブロックトレーニングを次のように開催いたしました。

1．場所：石川県金沢市金沢中央市民体育館（中・高校生：男子）
　石川県小松市小松総合体育館（中・高校生：女子）
　石川県白山市北國銀行スポーツセンター（小学生）
2．日時：平成28年9月3日(土)～4日(日)（小学生は4日のみ）
3．参加者：総数105人
　小学生27人、中学生17人、高校生27人、引率指導者14人・派遣ディレクター1人、NTSスタッフ20人

昨年度までの意見を踏まえ、中高生の男女とも2面のコートを取れる会場とし、指導環境の充実を図っての開催となりました。しかしながら、スタッフの分散、会場間の移動時間などから、スタッフや引率指導者間の意思疎通が図りにくい、指導内容の関係者間での共有が難しい、などの課題も見つかりました。各会場での指導内容の充実という利点も大きかったことから、来年度のセンタートレーニングのカテゴリー変更も見据えながら、より良い指導環境づくりを進めていきたいと考えています。また、今年は、例年トレーニングにご協力いただいている、北陸電力・北國銀行両ハンドボールチームが大会日程と重なり、参加いただくことができませんでした。そのため、石川県の高体連・中体連の指導者の皆さんに指導にご協力いただきましたが、結果として、より大きな指導内容の伝達効果があったように思います。

参加した選手に聞いてみると、「GKだけのトレーニングをこれだけ集中してやったことがなかったので大変勉強になった」、「他県の選手とゲームではなくトレーニングする時間を共有することでもっと頑張ろうという気持ちになった」、「何のための練習か意識するようになった」、「このトレーニングで学んだことをチームのみんなにも伝えたい」などの声があったことから、選手にも一貫指導内容が十分伝わったのではないかと思われますし、選手個々のモチベーションも上がったのではないかと感じています。

また、引率指導者と参加有資格者に対して、派遣ディレクターの尾石氏による「コーチセミナー」では、「世界のスタンダードと日本の現状」をテーマに、研修（兼義務研修）を実施しました。さらに、金原NTS委員長からカテゴリー変更などについての説明もあり、一貫指導体制の充実に向けて意見交換が活発に行われました。その中で、開催日程の設定についても多くの意見がありました。北信越ブロックは、国体予選会が8月の第4週に設定されていることから、夏休み期間中に開催出来ない年が多く、選手・スタッフとも参加しづらい日程になっているのが現状ですが、関係者の理解を得ながら、改善を図っていきたいと思います。

最後になりましたが、運営に当たった多くの関係者の皆様には、深く御礼申し上げます。そして、今後、NTS北信越ブロックトレーニングがさらに充実したものになるよう御理解と御協力をお願い申し上げます。

2016NTS 四国ブロックトレーニング

NTS 四国ブロック運営委員長　古野 幸司

平成28年8月27日(土)、28日(日)の2日間、徳島県鳴門総合運動公園体育館（アミノバリューホール）において、2016年度NTS四国ブロックトレーニングを開催しました。

今年度は、カテゴリー毎に各県協会より推薦された選手71名のほか、補助指導者、インストラクター等の総勢124名（参加者の内訳は下記のとおり）が参加しての開催となりました。

（参加者内訳）
- 高校生24名（男子12名、女子12名）
- 中学生24名（男子12名、女子12名）
- 小学生23名（男子12名、女子11名）
- 補助指導者21名、派遣ディレクター1名
- インストラクター10名、NTS運営委員6名
- デモンストレーター15名

トレーニングの内容としまして高校生・中学生は、一日目の午前中にOFトレーニング、午後にはDFトレーニングを実施し、二日目の午前中にも改めてOF・DFトレーニングを実施した上で、午後からは実戦形式での練習としてゲームを実施しました。

今年度のトレーニングの課題として、OFトレーニングではドリブルテクニックの向上とその活用、ポストとの連携による各種攻撃パターンの習得、DFトレーニングではOFに対する牽制を活かした守り方の習得等に重点的に取り組みました。具体的には、OFトレーニングではまずドリブルテクニックの向上を目的とした基礎練習を実施しました。その後は、応用編としてドリブルからの1対1を行ったほか、ポストとの連携による攻撃への応用を目的とした練習を行いました。まず、そのきっかけともなる2対2における攻防での位置取り等の習得に努めた後、3対3、4対4と人数を増やしていく中で、ポストとの連携による攻め方の各種パターンを習得することが図られたように思います。

一方、DFトレーニングではOFに対する牽制、利き腕への対応に重点を置き、基本的な対応からいろいろな状況下での守り方などについてトレーニングを実施しました。

各参加者は、これらトレーニングで学んだことを二日目の午後から実施されたゲームの中で実践するとともに、改めてインストラクターの指導を仰ぐなど、さらなる技術習得に努めていました。参加した選手からは、他県（チーム）の選手と一緒に練習するなど普段の練習とは違う環境でのトレーニングに「より高いレベルを知ることができた」「プレーに対する意識の向上が図られた」等の感想が寄せられました。

また、ブロックトレーニング参加の補助指導者及び有資格者を対象とした日本協会派遣ディレクターの亀井氏による「コーチセミナー」では、講義のほかフロアレベルにPCを持ち込み、各種トレーニングの意義を映像で確認するなど、指導技術の向上に努めました。このセミナーは、NTSの基本方針にも示されている①統一された指導法に基づいた一貫指導の実施、②指導者のレベル向上、③指導者に新しいハンドボール情報を提供することを目的として開催されており、参加者からは「指導していく中での考え方やいろいろな情報を得ることができ、非常によかった」と好評でした。こういった講習会を継続していくことにより、今まで以上に各カテゴリーを跨いだ一貫指導が行われていくものと期待されます。

最後になりましたが、毎年デモンストレーターとしてご協力を頂いております香川銀行ハンドボール部の皆様、また各県協会を始め運営にご協力頂きました皆様に深くお礼を申し上げます。次年度は、「コーチセミナー」の中でも説明がありましたが、NTSセンタートレーニングにおけるカテゴリー変更が予定されています。今後は、それらを含め新たな課題への対応も必要となりますが、NTS四国ブロックトレーニングがさらに充実したものとなるようご協力とご理解をお願いし、報告とさせて頂きます。



2016NTS 九州ブロックトレーニング

NTS 九州ブロック　安達 隆博

NTS 九州ブロックトレーニングは毎年熊本県ハンドボール協会、オムロンハンドボール部およびトヨタ紡織九州ハンドボール部のご協力により熊本県山鹿市で開催しております。4月に発生した熊本地震の影響も心配された中ではありましたが、今年も例年通りの計画で、8月22日および23日に高校生、9月3日に中学生の九州ブロックトレーニングを開催できたことに、ご理解ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝致します。そして、未だ復興の最中である県内多くの皆様の力になれるように、九州のハンドボールの力を集結させていくことを九州ブロックトレーニングでも再確認させていただきました。また、熊本では2019年には女子世界選手権が開催されることが決定しております。NTSを通して成長した選手達が地元九州熊本の地で躍動することを期待して行われたトレーニングとなりました。

昨年に引き続き、台風が九州を直撃した影響で中学生の2日目および小学生の部は、残念ながら開催することができませんでした。中学生にとっては、2日間の内容を1日に凝縮ということになりました。選手や指導スタッフにおいては幾分物足りないトレーニングとなったかと思いますが、NTS委員会より参加頂きました横手氏（高校生の部）、田中茂氏（中学生の部）とともに末岡氏、北林氏がトレーニングの趣旨等を細かくご説明いただいたことで、実際のトレーニングはより実りのあるものになったと感じております。

指導におきましては、2年前より導入された新しい指導システムがうまく機能し、九州ブロックの指導者の指導力向上に直結しているものと感じております。各県より選抜された指導者達のハンドボールに対するアツイ気持ちが随所にあらわれたトレーニングとなり、選手達だけでなく引率の指導者達にもよい影響を与えたことと思います。この好影響が各県へと伝わり、ハンドボール界の底上げとなることを切に期待しております。今後は、NTSがさらに充実するようにシステムとして進化していくことを願い、『九州はひとつ！』の合い言葉のもとに協力していきたいと考えております。





第４回全国U-12指導者研修会報告

小学生専門委員会 委員長　竹内 貞明



10月15、16日の両日、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて、第４回全国U-12指導者研修会を開催いたしました。研修開始前には蒲生晴明副会長兼専務理事に2020に向けた日本協会の決意と今後の協力についてご挨拶を頂きました。今回の一般参加者が70名、講師及び運営スタッフとして参加した小学生専門委員会メンバーを含めると総勢で90名近くとなり、当初予定していた会議室を変更するなど嬉しい誤算でのスタートとなりました。また、今研修会は、日本体育協会公認指導者資格更新の義務研修及び日本ハンドボール協会公認Ｊ級指導員養成講習会を兼ねて実施しました。

今回の研修は、

❶ レフェリー及び競技規則に関すること（福島亮一・競技規則研究委員長）
❷NTSトレーニングシステムに関すること（金原理博・NTS委員長）
❸ 小中連携の実技指導に関すること（尾石智洋・育成部長、U-16団長）
❹ ドイツの小学生実施規則に関すること（中山紗織・筑波大学大学院体育学専攻）
❺「ハンドボールを初めて手にした子供にあなたは何を教えますか」についてのグループ討議（三輪一義・指導普及本部長）
❻ 小学生の現状報告に関する報告（竹内貞明・小学生専門委員長）

についてそれぞれ報告、実践、検討する方法で実施しました。

1 レフェリー及び競技規則に関することでは、本年４月の競技規則改正を中心に、パワーポイントによる説明、動画を見ながらの解説、Q&A方式による質疑応答等が行われました。中でもキャッチ後の１歩とドリブル後の１歩の違い、７ｍスローの判断基準、攻撃側の違反、正しい防御動作、そしてそれを見極めるレフェリーの目が非常に重要であることを学び、小学生だから…ではなく、小学生だからこそ！ルールをしっかり守る、しっかり学ばせる必要がある事を再認識することができました。常にプレーヤーズファーストの考えを持ち、レフェリー・チームスタッフ・選手の情報共有が非常に大切であると改めて感じさせられました。大変分かりやすくお話いただき、福島先生の現場での経験を十分に生かした内容であり、参加者から「非常に分かりやすく参考になった」、「レフェリーの資格を是非取得したい」、「ルールを理解したうえでしっかり指導することが望ましい」等の多くの意見を聞くことができました。



2 NTS トレーニングシステムでは、金原 NTS 委員長から NTS の歴史と今後の展望について説明がありました。今後の取り組みに向けて多くの課題を検討していくこと、現場の指導者の意見を取り入れ、より良いシステムを作り上げることが重要であるとの事で、参加された指導者への協力依頼もありました。

3 小中連携の実技指導は専用コートに場所を移して実施しました。デモンストレーターとして、小学生は茨城選抜女子チーム、中学生は東京都東久留米西中学校女子チームの選手に協力していただき、小中学生が同じメニューを行う形式をとりました。実技指導全体のテーマとして「指導者としての観点をどこに置くかが大事。講習会の練習内容を手段として捉えるのではなく、目的とねらいを共有化できるように」という考えの基に実施されました。ボールをしっかり握ることの大切さをメインテーマに置き、体の軸（体幹）を使っての投げ方と扱い方を指導、正しいフォームでギリギリ投げ切れる所を見極めることの重要性を学びました。また、フットワークに繋がるステップについては、次の動作に移るための切り返しが重要で、体幹がぶれない様に繰り返し練習することが必要である事を教わりました。最後に４対４で練習メニューの確認を行った後、３対３を使って速攻時の判断力を UP し、限られたスペースの中や条件を変える事で正しい判断ができるかの確認を行いました。90 分程度の限られた時間配分の中、尾石先生には丁寧に分かりやすく指導していただき、参加者から時間が足りないとお叱りを受けるほどでした。

4 ドイツに２年間留学し、現地のチームスタッフとして指導に携わった経験を持つ筑波大学大学院体育学専攻の中山紗織さんから、ドイツの小学生実施規則について説明をしていただきました。ドイツでは、「どのようなハンドボール選手を育成するのかという理念をカテゴリーごとに設定」しており、「その理念を達成するために実施規則が定められている」ことを知りました。また、実施規則を定めることによって、理念を実現させるためによ



り良いトレーニングをもたらそうとも考えられていることを学びました。その内容として、U-8 では通常より小さいコート、少ない人数でゲームを行うことで、ゲーム状況を簡単にし、一人ひとりがボールに接触できる機会を増やすこと、シュート、そして得点のチャンスを増やすことを目的としていて、U-10 ではコート全面または半面でマンツーマン防御を行うことによってハンドボールの基礎的な状況のボール有無の１対１の中で、予測的な防御プレーを促していて、U-12 では初めての積極的なゾーン防御として、フォローやカバーの共同的なプレーを学ぶということが目的で、実施規則が定められているそうです。限られた時間の中で私たちが日頃目にすることができない世界との比較、そして文化の違いを感じる貴重な時間であり、日本においても、年代別の規則づくりについて、積極的に検討していく必要性を感じました。

5 グループ討議は、三輪指導普及本部長に全体統括をお願いしました。「初めてハンドボールを手にした子どもにあなたは何を教えますか？」と題して、４名１



組のグループで課題検討した意見を持って、全員が他のグループに伝えに行く方法です。自己紹介を兼ねたこの方法をワールドカフェと名付け、参加者全員が主役となり、他のグループへ出向いてプレゼンをすることでコミュニケーション能力向上にも大変役立ちます。最初は戸惑いも見られたものの、終盤は非常に盛り上がり、この時間内で指導者間のネットワークが大きく広がったと思います。参加者からいただいた意見は、指導普及育成のホームページ内にある小学生専門委員会のページで紹介させていただきます。

1. 全国小学生大会における指導者ライセンス義務付けに向けて準備を開始する。
2. 指導委員会と連携してU-12 指導法を整理し、NTS指導内容に反映する。
3. 全国小学生大会、ブロック交流大会のあり方を検討する。
4. Ｊクイックハンドボールの検証を行い、より良いゲーム様相を提案する。
5. 普及推進会議を全国で開催し、ブロック大会等へ委員を派遣し報告書にまとめる。
6. 全国の大会及び交流会の実態調査、人口調査を継続的に実施し、ＨＰで報告する。
7. 関係機関の協力を得て、小学生向けのハンドブックの作成に着手する。
8. 全国小学生大会のアンケート調査に基づき、次年度への改善点を探る。
9. 優秀選手及び優秀指導者の発掘、育成を目指す。

6 小学生の現状報告として、これまで小学生専門委員会で取り組んできた結果の報告、今後の展望を委員長の立場としてお話しする時間をいただきました。

15日の実技終了後に参加者全員による意見交換会を開催しました。80名を超える会場は移動もままならない状況ではありましたが、限られた時間の中で積極的に情報を交換し合う姿が多くみられました。これまで総勢150名余りの指導者がこの研修会に参加されており、今後は、開催時期、開催地等も検討し、より多くの指導者が参加しやすい環境を作っていくことを検討していきます。遠路足を運び、一人でも多くの指導者と交流し、一つでも多くの知識を得るために全国から指導者が集うこの現状こそが、ハンドボール界を支える土台作りのスタートだと思います。この研修会を通じて私たち運営側である小学生専門委員会メンバーも参加者から多くの事を学びました。これからは更に納得してもらえる環境づくり、信頼される人、そして組織づくりに尽力していく覚悟です。

プレーヤーズファースト！「子供達のために私たちはいったい何ができるのか？」を考えて。

終わりに、この研修会にご協力、ご尽力いただきました関係各位に心から感謝申し上げ、研修会の報告といたします。

参加者名簿

	氏名	都道府県	所属
1	中川　満則	北海道	メーヴェン釧路ハンドボールクラブ
2	野田　健治	青森県	青森県ハンドボール協会
3	棟方　丈博	青森県	青森ハンドボールスポーツ少年団
4	木村　容子	青森県	青森ハンドボールスポーツ少年団
5	岩城　圭祐	青森県	十和田ジュニアハンドボールクラブ
6	前山　雄一	青森県	十和田ジュニアハンドボールクラブ
7	八重樫　陵	岩手県	Volpe 滝沢ハンドボールクラブ
8	沖田　彩	宮城県	古川 GOLDEN EGGS
9	冨樫　陽介	山形県	ＨＣ山形
10	大月　渉	群馬県	群馬県協会
11	川和　啓将	埼玉県	吉川市ハンドボール連盟
12	南木　貞夫	埼玉県	株式会社スポーツイベント
13	松本　和	埼玉県	三郷市役所
14	福邑　和志	茨城県	スポーツ少年団守谷クラブ
15	堀田　慶	茨城県	豊里ＨＣ
16	榎本　雅秀	茨城県	関東ハンドボール協会
17	津覇　仁一	茨城県	土浦ハンドボールクラブ
18	中山　沙織	茨城県	筑波大学
19	小林　桂	千葉県	東邦大学付属東邦中学校高等学校
20	伊藤　貴寛	東京都	東久留米ハンドボールクラブ
21	寺内　慧佑	東京都	東久留米ハンドボールクラブ
22	武江　誠	東京都	東久留米ハンドボールクラブ
23	島田　栄	東京都	東久留米ハンドボールクラブ
24	和田　真一	東京都	江東ハンドボールクラブ
25	得居　秀匡	東京都	小金井ハンドボールクラブ
26	羽田　泰子	東京都	ＨＣ調布
27	首藤　信一	東京都	ＨＣ調布
28	西村　英士	東京都	ＨＣ調布
29	鍛治　琢磨	東京都	ＨＣ調布
30	小島　淳子	東京都	ＨＣ調布
31	宮本　泰憲	東京都	武蔵村山市ハンドボールクラブ
32	中村　有美	東京都	武蔵村山市ハンドボールクラブ
33	小山　葉子	東京都	武蔵村山市ハンドボールクラブ
34	横田　真穂	東京都	武蔵村山市ハンドボールクラブ
35	吉成　慶	東京都	多摩ハンドボールクラブ
36	高橋　智信	東京都	多摩ハンドボールクラブ
37	伊藤　晃一	東京都	江東ハンドボールクラブ
38	猪又　紀之	神奈川県	川崎有馬ハンドボールクラブ
39	熱海　雄介	神奈川県	川崎有馬ハンドボールクラブ
40	北村　孝	新潟県	柏崎ジュニアハンドボールクラブ
41	広川　則夫	新潟県	柏刈ハンドボールクラブ
42	服部　博幸	長野県	千曲市立埴生小学校ハンドボール班
43	長坂　直樹	長野県	茅野市小学生ハンドボール教室
44	中谷　勇樹	石川県	小松ジュニアハンドボールクラブ
45	藤中　修	石川県	能美市ジュニアハンドボールクラブ
46	田中　秀昭	福井県	北陸電力 Jr ブルーロケッツ
47	大澤　泰介	静岡県	静岡県ハンドボール協会
48	伊藤　優	静岡県	富士ハンドボールクラブ
49	富樫　総一郎	岐阜県	キャロット jr
50	五島　健児	岐阜県	岐阜ＭＨＣレッドチル
51	平瀬　浩樹	岐阜県	岐阜ＭＨＣレッドチル
52	河口　英司	愛知県	蒲郡クラブ
53	森本　健哉	愛知県	東海ハンドボールスクール
54	鈴木　孝	愛知県	竜北ハンドボール教室
55	吉原　恒	三重県	ヴィアティン三重ハンドボールクラブ
56	中村　俊輔	三重県	亀山ハンドボールスクール
57	塩津　僚	三重県	笹川ハンドボールクラブ
58	樋廻　茂樹	滋賀県	Ｊｒ．レイカーズ
59	迫田　修希	滋賀県	Ｊｒ．レイカーズ
60	石田　真由美	京都府	草内小学校ハンドボールクラブ
61	河内　康展	奈良県	真弓クラブ
62	播摩　康弘	奈良県	真弓クラブ
63	渡井　弘枝	大阪府	大浜キッズ・大阪ジュニア
64	柳瀬　賢佑	兵庫県	明石市立望海中学校
65	高原　千草	広島県	広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ
66	倉岡　知代	広島県	広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ
67	浅野　光治	福岡県	とびうめ Jr./IDB スポーツクラブ
68	幡東　忠則	大分県	日岡ハンドボールスポーツ少年団
69	池田　ゆう子	鹿児島県	霧島ジュニアハンドボールクラブ
70	与那覇　淳	沖縄県	仲西ハンドボールクラブ

第71回国民体育大会

開催期日：2016年10月6日(木)～10日(月)
会　　場：岩手・花巻市総合体育館ほか

【成年男子】

▼１回戦
埼　玉 42 (23－9、19－10) 19 和歌山
福　島 28 (13－12、15－11) 23 岐　阜
福　井 43 (17－7、26－5) 12 北海道
宮　城 45 (18－15、27－18) 33 大　分
佐　賀 29 (11－9、18－16) 25 広　島
千　葉 32 (17－18、15－12) 30 大　阪
岩　手 25 (12－12、13－9) 21 香　川
愛　知 33 (13－13、20－12) 25 東　京

▼準々決勝
埼　玉 46 (22－4、24－9) 13 福　島
宮　城 33 (16－9、17－10) 19 福　井
千　葉 36 (17－17、19－15) 32 佐　賀
愛　知 34 (20－11、14－10) 21 岩　手

▼準決勝
埼　玉 32 (17－11、15－13) 24 宮　城
愛　知 41 (20－9、21－11) 20 千　葉

▼３位決定戦
宮　城 26 (11－12、15－12) 24 千　葉

▼決　勝
愛　知 30 (12－15、18－10) 25 埼　玉

【成年女子】

▼１回戦
大　阪 32 (16－13、16－13) 26 三　重
香　川 28 (12－9、16－9) 18 京　都
愛　知 23 (8－12、15－10) 22 富　山

▼２回戦
石　川 26 (14－8、12－13) 21 大　阪
東　京 27 (12－10、15－9) 19 岩　手
茨　城 40 (20－10、20－8) 18 秋　田
広　島 23 (14－3、9－9) 12 沖　縄
熊　本 26 (11－10、15－9) 19 香　川
千　葉 34 (18－14、16－15) 29 岡　山
福　島 33 (14－10、19－12) 22 北海道
鹿児島 26 (15－8、11－11) 19 愛　知

▼準々決勝
石　川 25 (13－9、12－8) 17 東　京
広　島 25 (12－15、13－8) 23 茨　城
熊　本 30 (16－9、14－5) 14 千　葉
鹿児島 38 (15－5、23－7) 12 福　島

▼準決勝
石　川 31 (14－6、17－7) 13 広　島
熊　本 25 (13－5、12－11) 16 鹿児島

▼３位決定戦
広　島 27 (11－12、16－7) 19 鹿児島

▼決　勝
石　川 18 (9－5、9－8) 13 熊　本

【少年男子】

▼１回戦
埼　玉 19 (8－10、11－8) 18 福　岡
岡　山 34 (17－9、17－15) 24 山　梨
長　崎 30 (14－6、16－13) 19 福　島

▼２回戦
山　口 35 (19－10、16－10) 20 埼　玉
岩　手 31 (18－7、13－9) 16 北海道
茨　城 40 (22－18、18－14) 32 福　井
岐　阜 23 (12－8、11－13) 21 香　川
京　都 25 (10－10、15－11) 21 岡　山
沖　縄 33 (19－7、14－14) 21 宮　城
神奈川 32 (11－11、12－12) 30 愛　知
(2－1 延長 2－3) (5 7mTC 3)
長　崎 29 (10－13、12－9) 27 大　阪
(4－1 延長 3－4)

▼準々決勝
山　口 21 (8－9、13－9) 18 岩　手
茨　城 40 (18－12、22－12) 24 岐　阜
沖　縄 34 (17－13、17－14) 27 京　都
長　崎 29 (15－11、14－8) 19 神奈川

▼準決勝
山　口 27 (12－9、15－9) 18 茨　城
沖　縄 29 (17－12、12－13) 25 長　崎

▼３位決定戦
茨　城 32 (15－6、17－8) 14 長　崎

▼決　勝
山　口 32 (14－16、18－9) 25 沖　縄

【少年女子】

▼１回戦
茨　城 28 (14－13、9－10) 25 大　分
(2－0 延長 3－2)
京　都 32 (15－13、17－7) 20 宮　城
東　京 24 (15－9、9－11) 20 福　島
香　川 26 (14－12、12－10) 22 愛　知
大　阪 27 (11－5、16－9) 14 三　重
福　井 25 (15－13、10－10) 23 岩　手
山　口 19 (9－7、10－9) 16 神奈川
福　岡 46 (22－6、24－3) 9 北海道

▼準々決勝
茨　城 24 (9－11、15－12) 23 京　都
香　川 23 (7－15、16－7) 22 東　京
大　阪 26 (12－11、14－13) 24 福　井
福　岡 20 (9－10、11－8) 18 山　口

▼準決勝
茨　城 23 (6－12、13－7) 21 香　川
(2－0 延長 2－2)
大　阪 31 (17－11、14－17) 28 福　岡

▼３位決定戦
香　川 22 (11－8、11－13) 21 福　岡

▼決　勝
茨　城 28 (12－6、16－11) 17 大　阪

公益財団法人 日本ハンドボール協会
日本ハンドボールリーグ機構

事務所移転のお知らせ

新住所 〒160－0003　東京都新宿区本塩町23番地　第２田中ビル７Ｆ

新電話番号・FAX 番号
公益財団法人 日本ハンドボール協会　TEL：03－6709－8940
日本ハンドボールリーグ機構　TEL：03－6709－8980
（共通）　FAX：03－6709－8941

移転日程（年末年始休日） 12月28日(水)～１月５日(木)
※年内は12月27日(火)までとなります。
※新年は１月６日(金)より新事務所にて開始致します。

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【宮城】福田　伸【埼玉】齋藤忠男、齋藤ゆかり、小澤隆志、小澤智子【東京】泉　直樹、東尾吉信、寺嶋　潔、荒川晶夫、荒川留美【神奈川】島田信弘、種村明彦【富山】林　裕子【静岡】細澤　覚【愛知】西みどり、光岡陽子、村松真帆【三重】橋本行弘、橋本由紀子【大阪】本田勝亮、伊藤慎吾、中塚富佐子【広島】塩屋正子

【12月・１月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………
12月10日(土)　常務理事会
1月14日(土)　常務理事会
【大会】
12月20日(火)～25日(日)
第68回日本選手権 ………………………………（東京都）
12月23日(金)～27日(火)
第25回JOCジュニアオリンピックカップ
……………………………（沖縄県・浦添市、豊見城市）
1月5日(火)～7日(土)
NTSセンタートレーニング（高校生）（東京都・ANTC）
1月7日(土)～9日(月)
NTSセンタートレーニング（中学生）（東京都・ANTC）
1月11日(水)～29日(日)
第25回男子世界選手権 ………………………（フランス）

HANDBALL CONTENTS Dec.

次号１・２月合併号（No.565）は２月１日発行予定です。

（公財）日本ハンドボール協会編

『ハンドボール』第五六四号

平成二十八年十一月二十六日印刷
平成二十八年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 〇三ー三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 蒲生晴明

定価 年間三三〇〇円